始

323
459

323-459

Common Mistakes in English

誤り易き英語の解釋

南日恒太郎校閲
聚英閣編

TOKYO
SHUEIKAKU
1922

大正
11. 12. 19
内交

序

世に英語の受驗準備書として流布するもの頗る多しと雖も．本書の如きは．~~著者の創意~~になるものにして．我國の學生等が英文を綴るに當り一に文法書にのみ賴る爲め．識らず識らずの内に誤謬に陷る事屢々なり．本書は實に此一大通弊を除去せん爲め英語の言意を普く系統的に叙述し．彼此の根本的の差異に觸れ．邦人にして．作文の際．往々．陷り易き誤謬を指適せるところ．ひそかに著者の自負するところ也。

作文中最も困難なるは．前置詞の用法也。こは．言意は同じなるも用法を異にする言語多きためにしてこれに次ぐに冠詞．助動詞．接續詞．副詞配置の法なり。これらを詳論して剩すところなく．終には．種々の原因より生ずる誤謬を列擧せり。

故に實地作文に際しては　直ちに座右の便となるべく．練習問題をも附したれば教科書ともなるべし。

受驗生及英語を學ぶ諸君の勤勉．この書を熟讀玩味して．研學の一端ともならば著者の本懷これに過ぎず。然れども著者の淺學．或は全然誤謬無きを期し難し．大方の示教を仰がば幸也。

著者誌す

内　容

第一篇

慣用語 (idiom) の誤り …… 1

第二篇

單語及熟語の選擇に於ける誤り ……18
單語 (word) の選擇に於ける誤り ……18
熟語 (Phrase) の選擇に於ける誤り ……57

第三篇

文章法 (syntax) の誤り ……64
冠詞 a. an 及び the の用法……66
不定冠詞 a 又は an の用法……66
定冠詞 the の用法……73
shall と will ……110
should と would……113
may, can, might, could, must, 及び ought の用法……117
條件文の用法……121
前置詞の用法……141

第四篇

雜種の誤り ……158
雜種の誤文訂正問題……165

よく勉強なさるのは結構なことの図書館へ来て
居る所の皆さまの人がこれから又幾年か使用さる
のですから中味をきれいにしておいてください
自分の物と他人の者との区別をつけてください。一上女子より
読む話氏へ少女諸氏も若しく
以後注意せよ。

諸君諸氏よ本の不足に当りて本をとじる大きなる金
を出して新の本を買さるるは有難く思つよ
反省して見給え。
実に本の本はよくもはずいかで
本の本道八段の値ちさつ感のまきをかつある

例　言

我國に於ける英學生の屢々陷り易き誤りを稱して．之を共通の誤り．(Common mistakes) と云つてゐる。此の誤りは．四つの部分に分ける事が出來る。

（1） 慣用句 (Idioms) の誤り。

この中には．日本語の慣用句を其の儘英語に飜譯する爲めに生ずる誤りをも．含んでゐる。

（2） 單語 (Words) 及び熟語 (Phrases) の選擇に於ける誤り。

此の誤りは主として．和英辭書の單語．熟語の．不適當なる選擇に起因してゐる。

（3） 文章法 (Syntax) の誤り。

この中には．冠詞 (Article) 助動詞 (Auxiliary verb). 條件文 (Conditional Sentence). 副詞 (Adverb) 前置詞の用法に於ける共通の誤り．及び其の他の誤りも含んでゐる。

（4） 其の他種々なる誤り。

この部には．種々の原因に依つて生ずる Common Mistakes を含んでゐる。

誤字脱字 気つかず

第一篇

慣用語の誤り

1. "My friend." と云ふ形を使つてはならぬ。此の場合には. "A friend" もしくは "A friend of mine" 或は. "One of my friends" と云ふ形を用ひねばならない。何となれば "My friend" と云へば話手 (Speaker) はたゞ一人しか友人を持たないことになるから。

注意. "My friend" の次に. 固有名詞(Proper Noun) が來る時には. この形を使つて宜しい。例へば "My friend Tomita called upon me yesterday" (私の友人の富田が昨日私を訪問しました.) の如きである。

2. 同じ理由で私の親戚と云ふ場合に. "My relation" と云つてはならぬ。この場合は. 必ず. "One of my relations" 或は. "A relation" 若くは. "A relation of mine" と云はねばならぬ。例。"I was called out by one of my relations" (私は親戚の者に呼び出されました。)

3. 人に話し掛けたり. 或は人の話をする時には. 敬稱の. Mr. (様)或は Mrs(夫人)を單獨に用ひてはならぬ。必ず. その後に名前を付けねばならぬ。例。"Is Mr. Harris in?"(ハリスさんは御在宅ですか?)。"Is Mrs.

オ一百同意

113

Toyama well?"(外山さんの奥様は御壯健ですか?)

注意。 1. 著者或は政治家の如き知名の士の事を云ふ場合には. 敬稱の Mr. を固有名詞の前に付けない。

例。 "Shimada's dictionary is the best." (島田の字引が一番良い。)。 "I generally use Websters dictionary" (私は大抵ウヱブスターの字引を使つてゐます。)

注意。 2. 見知らぬ人の注意を求める際には. "Sir" (貴方!) "Madam!" (奥様) の如き言葉を用ひる。"Gentieman!" と云ふ言葉は用ひぬ。

4. 限定する名詞が無生物 (inanimate object) である場合は. 所有格の語尾變化卽ち ('s) を用ひてはならぬ。この場合は必ず. 前置詞 "of" を用ひねばならぬ。例。"The book's price"(本の値段)。"The house 's roof" (家の軒)。"The street's width"(街の幅)。これ等の諸例は次の如く改めねばならぬ。"The price of the book" "The roof of the house" "The width of the street"

所有格の語尾變化卽ち ('s) は次の如き場合には用ひて差支へない。

(a) 人の固有名詞. 例. "Mr. Kaneko's Book" (金子さんの本)。 "John's toy" (ジョンの玩具)など。

(b) 階級の名前。例. "My father's hat." (私のお父さんの帽子。) "The farmer's spade"(農夫の

鋤。) "The soldier's sword"(兵士の劒)の如し。

(c) 動物。 例. "The cat's mew" (猫の啼聲。) "The eagle's flight" (鷲の飛翔。) "The ant's industry"(蟻の勤勉)。

(d) 擬人される威嚴ある物體。例 "The sun's ray"(太陽の光線。) "The moon's rising"(月出。) "The nature's voice" (自然の聲。) "A men-of-war's rigging"(軍艦の索具)。

(e) 人の心理能力は往々にして擬人化せられ、その語尾變化を取る事がある。 例. "Reason's voice"(理性の聲。) "For conscience's sake" (良心の爲に)。

(f) 人類の集合的利害。例. "Society's well-being" (社會の安寧。) "The law's delay" (法の遲滯)。

(g) 期間を表はす名詞にも此の形を用ふ。

例. "A day's leave"(一日の許可。) "A month's holiday" (一月の休暇。) "A few hour's intercourse"(數時間の會見。) "Thirty Years War"(三十年戰爭。)

5. 限定形容詞 (Qualifying adjective) を用ひねばならぬ所へ. 抽象名詞 (Abstruct noun) を用ひてはならぬ。例へば. "I am sickness."(私は病氣である。) "The river is convenience" (この河は便利だ。) "The palace is splendor." (この宮殿は立派だ。)などと云つてはならぬ。 かゝる場合は必ず. "I am sick" "The river is

convenient" "The palace is splendid" と云はねばならぬ。

6. 他動詞の目的を省略する爲に．屢誤りに陷ることがある。例へば．"Did you see him?"（彼を見ましたか。）"Yes, I saw" (はい．見ました。) の如き場合には必ず "Yes, I saw him" と云はねばならない。又．"Do you like music? Yes, I like very much." (貴兄は音樂が好きですか。はい．大變好きです。) の如き場合も．必ず．"I like it very much" と云はねばならぬ。

7. 生れると云ふ場合には．必ず．"To be born" と云はねばならぬ。決して "born" と單獨に云つては不可ぬ。

例．"He born in the era of Bunsei." (彼は文政の代に生れた。) この場合は "He was born in the era of Bunsei" としなくてはならぬ。又 "Where did you born?" (貴兄は何處で生れましたか) と云ふのは誤りて．"Where were you born?" の方が正しい。

8. 蓋然的な現在．或ひは．未來を表はす．日本語の『だらう』を英譯する時には．英語の未來動詞を使ふだけでは良くない。この場合は．"do you think" (貴兄は思ふか。) "do you expect" (貴兄は豫期するか) "is it likely" (そうありそうか) "I think" (私は思ふ。) "perhaps" (多分．) "probably" (恐らく) などの語を．英語の未來動詞と共に用ひねばならぬ。

例．„Do you think it will rain to-morrow?." (明日雨

が降るでせうか。)

"Do you think there are any"? (少しはありますか?)

"I think there are some" (少しはあるでせう。)

"Perhaps there are some" (多分．少しはありませう。)

"I expect he will come here to-morrow" (あの人は．明日は．こゝへ來るでせう。)

"It will probably clear up this afternoon" (今日の午後は．天氣が上るかも知れません。)

"Japanese shoes are probably more convenient for the Japanese, and European shoes for Europeans." (日本人の靴は．日本人に便利であり．歐洲人の靴は．歐洲人には．便利であらう。)

"Do you think he will call upon us to-day?" (あの人は．今日私等を訪れるでせうか)

かゝる場合に若し "Will he call upon us to-day?" とするならば．彼の visit することは．確定してゐることを意味するのである。

9. 距離 (distance) や時間 (time) を云ひあらはす時．"one and half miles" (一哩半) "one mile and half" (一哩半) "four o'clock and a half" (四時半) の如き形を用ひてはならぬ。距離を云ひ表はす場合には．"A quarter of a mile" (四分の一哩) "A mile and three quarters" (一哩四分の三) などと云ひ．時間を表は時には．

o'clock" (一時) "A quarter past one" (一時十五分過ぎ). "A quarter to one"(一時十五分前) "two o'clock" (二時) "three minutes past one"(一時三分過ぎ). "five to ten"(十時五分前) "half past ten" (十時半) の如き形を用ふ。

10. 疑問を發する時の誤り。

疑問を發する場合は. 隨分誤りをすることがある。疑問を發する時の規則は簡單であるが. 屢誤ることがあるため. 注意せねばならぬ。

(a) 主語は "be" 動詞の後に來なければならぬ。

"What was your opinion on the matter?" (この事件について. 貴君の御意見は如何ですか).

"Is Mr. Yamada in?" (山田さんは. 御在宅ですか).

"Who was the inventor?" (その發明者は誰でしたか?)

"Why was the Chinese navy so weak?" (何故支那の海軍は. そんなに弱かつたのですか)。

(b) 文章の主語が疑問代名詞 (interrogative pronoun 例へば. who, which, what の如し)でない時には助動詞 "do" 又は "did" を用ふ。

例。"What is your name?" (何と云ふ御名前ですか?)

"Who are you?" (何方ですか)

"Which is better?" (何ちらが良い方なのですか)

"Where do you live?" (何處に御住ひですか)

"Whom did you meet in this street?" (この通りで誰方に御會ひになりましたか)

(c) 動詞の過去形を助動詞 "did" と共に用ひては不可ぬ。

例 "To what place did you sailed the first day of the cruise?" (航海の第一日目は. 何處へ向けて出帆なさいましたか。)

"Did you wrote to your father?" (御父様に御手紙を御出しになりましたか).

以上の諸例中 "sailed" は "sail" に改め. "wrote" "write" に改めねばならぬ。

(d) "to be" "do" "did" の如き助動詞は必ず主語の前に置くべきで. 後に置いてはならぬ。

例。"Is the order of the words changed in Japanese?" (日本語では. 語の順序が違ひますか)

"Why did they not pursue the fleet in the night?" (何故. 夜になつて. 艦隊を追跡しなかつたのだらう)。

"May I go there?" (私は其處へ行つても宜しふ御座いますか)

"Shall you go there?" (其處へ被居いますか)

"Have you been writing it?" (貴君は. 今迄それ

を書いて居たのですか)

"Would you be so kind enough as to explain the meaning of the sentence?" (御氣の毒ですが. この文章の意味を説明して下さいませんか)

(e) 受動態 (Passive Voice) の形を作る時. 助動詞 "to be" の代りに. "do" や "did" を用ひてはならぬ。

例。 "In sleeping on deck how did you protected (were you protected に改めなくてはならぬ) from dew and rain?" 甲板で眠る時には. どうして露や雨を凌ぎましたか)

"Did you not tired?" (were you に變へねばならぬ) 御疲れになりましたか。

11. "Which do you think is better A or B?" (AとBと. どちらが良いか) の如き疑問形の文章に於て. 我國英學生は. 往々にして『AとBとはどちらが良いか』と云ふ日本語を. 其の儘英譯して. "Which of A and B do you think is better?" と云ふことがあるが. これは誤りである。 他の例を示せば. "Which of dynamite and guncotton is more powerful?" (ダイナマイトと. 綿火藥と何ちらが强力か) と云ふのは誤りで. "Which is more powerful, dynamite, or guncotton?" と云ふのが正しい。

注意。比較さるべき二つの物の名が擧げられてない時は次の例の如き形を用ふ。

"Which of those ships is faster?" (何ちらの船の方が速いのですか。)

12. 否定疑問 (Negative Question) の答に於ける "Yes" "No" の用法に於いて往々誤りを認めることがある。英語に於ては. "Yes" "No" の用法は疑問文の形式如何に依らない。されば. "Don't you like music?" (貴君は音樂を好きませんか。)或は. "Do you like music?" (貴君は音樂が好きですか。) と問はれても. その答へは共に. "Yes, I like it" (ハイ. 好きです。) 或は "No, I do not like it" (イエ. 好きません。)である。

規則 I. 否定疑問に對する答の場合には. 決して "Yes" "No" と單獨に云つてはならぬ。必ず. その後に. 主語. 目的と共に動詞或ひは助動詞を繰返さねばならぬ。

規則 II. 否定疑問に對する答の場合には. "yes" は. 決して. "no" と共に使用さるべき "not", "never" と共に用ひてはならぬ。

例 "Are you not tired?" (御疲れにはなりませんか。)

"Yes, I am." (いゝえ. 疲れました。)

"No, I am not." (はい. 疲れは致しません)

"Don't you like skatng?" (スケートは御好きになりませんか。)

"Yes, I do." (いゝえ. 好きです。)

"No, I do not." (はい. 好きません。)

一般に云へば．否定疑問に．肯定の答（affirmative answer）を豫期するものであつて．否定の答（Negative answer）を豫期するものではない。

13. 或る場所の人口に就いて云ふ時には以下の諸例の如くに云ふ。

例 "What is the population of that province?"（あの國の人口はどの位ありますか。）

"The population of this city is about eight hundred thousand."（この市の人口は約八十萬です。）

"It has 800,000 populations."（人口八十萬）．若しくは．"It contains 40,000,000 population."（人口四千萬）と云ふのは誤りである。

14. 距離を云ひ表はす場合には．次の如き形を用ふ。

例 "How far is Formasa from here?"（こゝから臺灣まで何の位ありますか。）

"How far do you walk every day?"（毎日何の位お歩きになりますか。）

"I went to school in a town twenty miles from my native place."（私は．故郷から二十哩も離れてゐる町の學校に通つてゐました。）

"I often visited a friend who lived not far from my home"（私は家からあまり遠くない所に住んでゐた友人を度々訪問しました。）

次に示すが如き誤りに陷つてはならぬ。

"is fai two miles"（二哩離れてゐる。）"is a mile

distance"（一哩はなれてゐる）。"separated a mile away from."（一哩離れてゐる）。"a mile far from"（……から一哩）"how many distance"（どの位の距離）"What distance is there."（其處まで何の位あるか）など。

15. 或る動作を遂行するために要する時間の長さを云ふ場合には．一般に次の如き形が用ひられる。

例 "How long does it take to build a large man-of-war?"（大きな軍艦を作るにはどの位（日數）かゝりますか。）

"It usually takes（"it wants" ではない。）more than a year."（大抵一年以上はかゝります。）

"How long does it take you to go school?"（學校へ行くのに何分位かゝりますか）

"It takes me about fifteen minutes."（約十五分かゝります。）

"How long does it take you to go home by the shortest way?"（御宅に歸るには．一番近道をして．どの位かゝりますか。）

"It takes me a little over a day"（一日と少し位かゝります。）

16. 或る期間の消費される方法を述べる場合には次の如く云ふ。

例 "How do you expect to spend the summer vacation?"（貴君は．此の夏休をどうして暮さうと思

ひますか。)

"I shall spend part of it at home and part of it in travelling" (私は一部分は家で暮し. 他は旅行で暮さうと思ひます。)

"I expect to spend it in("by" や "for" を用ひてはならぬ) amusing myself" (何か面白いことをして過し度いと思ひます。)

"Spend" と云ふ動詞の後には. 前置詞は in でその後には體用詞(gerund)が來ることに注意せよ。"in" の代りに "to" を用ひ. 不定法(infinitive)を用ひてはならぬ。今. 陷り易き誤りの一例を舉げれば.

"I spent a year ~~to prepare~~ in preparing for the entrance examination of this school." (私は此の學校の入學試驗備準に一年費しました。) この例の to prepare …は. in preparing の誤りである。

17. 試驗(examination)に關しては. 次の如き形が使はれる。

例 "The examiner holds(或は gives) an examination." (試驗官が試驗をする。) "The student takes an examination." (學生が試驗を受ける。) "He passes it" (彼は試驗に及第する。) "He fails in it." (落第する。)等。我々は決して. "to do an examination" 或は "to receive an examination" とは云はない。一學校の總ての試驗に通過した時は. "He graduates from that school." (卒業する)と

欠

欠

表はす時に用ひられるが. "……years of age" と云ふ形は人の年齢を云ふ時にのみ用ひられる。この形は全然使用しなくても宜しい。人の年齢を云ひ表はす時に "years old" は往々にして略される事がある。上例の如きも. "When I was fifteen I determined to enter the navy." と云つて差支へない。

練習問題 I.

A.

次の文章の誤りを正せ。

(1) The newspaper of to-day is interesting.
(今日の新聞は面白い。)

(2) How many are the populations of this city?
(此の市の人口はいくらか)

(3) Which of gold and diamond is more precious?
(金と金剛石と. どちらが貴重であるか)

(4) How many distance can you ride?
(どの位乗れますか)

(5) Being it cloudy, I feel very disagreeable to-doy.
(曇つてゐるので. 今日は大變氣持が悪い)

(6) When the battle of Trafalgar, Mr. Nelson was riding on the Victory (トラフルガー戰役の時. ネルソン氏はヴイクトリー號に乘つてゐた。)

(7) How many hours do you want to go home by the shortest way? (一番近道をして. お宅まで

何時間かゝりますか。)

(8) A children's group ~~is having~~ a sham fight in the playqround. (子供の群が運動場で瞞しつこをして遊んでゐる)

(9) Every day when I come from school, it is three o'clock and half. (毎日學校から歸つて來ると三時半です。)

(10) Where did he born? He borned at Yokohama and he is now in the age of fifteen. (彼は何處で生れましたか。彼は横濱で生れて. 今十五歳です。)

(11) Please, remain until to-morrow. You are very dangerous to ~~out~~ out in such a stormy night. (明日までゐらつしやいませ。こんな暴風雨(あらし)の夜に御出掛けになるのは. お危(あぶの)ふ御座います。)

(12) Saikyo is at distance of more than 300 miles from here, and it has 639, 896. populations. (西京は此處から三百哩以上も離れてゐて. その人口は六拾參萬九千八百九十六ある。)

(13) We are the first time to see such a picturesque scenery, and we indeed, were pleasant. (私共はこんな美しい景色を見るのは今度が始めてです。ほんとに. 愉快ですね。)

(14) Yesterday the teacher did a dictation's examination, and the pupils who received it were fifty

in number. (昨日先生が書取の試驗をなさいまして. 受驗した生徒は五十人ありました。)

(15) One day when I went to Kamakura with friend, we met some foreigners and were very difficult to speak to them in English. (或日僕が友人と鎌倉へ行つた時 二三の外國人に出會つたが. 彼等に英語で話しかけるのは大層困難であつた。)

B.

次の日本語を英語に直せ。

1. 大阪城は誰が築きましたか。
2. 仙臺には私の親戚が居ります。
3. 今三時四十五分ですから. 伯父さんはもう汽車に乘り込まれましたらう。
4. 私は歩いて日光へ行きましたが. 歸りには馬に乘つて來ました。
5. 現今は到る所鐵道が出來ましたから. 私共は旅をするのに甚だ便利です。
6. 中川君は. 歐米の諸造船所*を巡廻するので. 三年暮し*ました。
7. 此處から函館までどの位里程はありますか。
8. 毎日私は. 翌日の課業の下調をするに二時間はかゝります。
9. 尻矢岬の沖を航すると瀬戸内海を航するとはどちらが危險でせうか。

3. もう……already.　6. 造船所……docks, 暮らす……to spend　7. 下調べする……to prepare.

第　二　編

單語及び熟語の選擇に於ける誤り。

單語や熟語の中で. 不適當な意味に用ひられてゐるものが隨分ある。これ等の主なるものは以下に擧げるが. 讀者は注意してこれを記憶し. その用法を誤らぬやうにせねばならぬ。

單語の選擇に於ける誤り。

1. to accompany, attend, escort.(伴ふ)

我々は. 一緒に行き度い人を accompany(伴ふ) し. 仕へ度いと思ふ人に attend(お伴をする或は奉仕する) する。又我々は. 擁護(protct)或ひは警護(guard)を要求された人を escort (警護する或は護送する) のである。我々は自分と同等の人を accompany し. 目上の人々には attend. し. 目上の人或は目下の者を escort する。

例. "A friend accompanied me on my way home." (友人が私の歸り道を送つてくれました。

"A page attended the prince."(小姓が公爵のお伴をしてゐました。)

"St. Paul was escorted as a prisoner by a band of three hundred men."(聖パウロは捕虜として. 三百人の團體に護送されました。)

2. All, whole (全き)

all は個々の物に重きを置き. whole は部分(parts)より成れる一團體 (A single body) に重きを置く。兩者共に「全き」ことを意味す。例. "all the interesting objects" (總ての面白いもの). "a whole week" (一週間全部). "a whole year" (丸一年). "the whole globe" (全地球) 等の如し。

3. Alone, solitary, lonely. (淋しい)

Alone は孤獨を表はし. Solitary は孤獨の性質を意味し. Lonely は孤獨の有樣を示す。Alone は人の狀態を述べ Solitary は人及び物の性質に關し. lonely は孤獨なる物の性質に就いて云ふ。"A person walks alone." (たゞ一人で歩く)。"A person takes a solitary walk in a lonely place." (さびしき所を. ただ一人で歩く)など. 又. 孤獨 (alone) を好む人は solitary turn (孤獨的傾向) の人である。屢々我々が alone の狀態に居ることの出來る場所は. solitaty 或は lonely place である。

4. Always, at all times, ever (常に)

Always と云ふことは. 凡ての事情の下で(Under all circumstances) 或は人生のあらゆる方面を通じて. (through all the ways of life) と云ふ意味であつて. 換言すれば. 間斷なく (uninterruptedly)と云ふ事である。At all times とは時の區別なく (without distincton of time) と云ふ事であり. Ever は永久に (for a perpetuity 或は without end) と云ふ意味である。

"A man must be always virtuous."(人は常に有德ならざるべからす)。上例は.『人は逆境(adversity). 順境(prosperity)の如何に拘はらず有德ならざるべからず』と云ふ意味である。又"A man must be at all times virtuous." と云へば.『人は.出入り. 立ち居につけ.夜.晝となく德を守らねばならぬ』と云ふ意味である。"He will then be ever happy."(然らば. その人は永遠に幸福であらう。)この例にも見るごとく. ever は.彼の生涯及び來世(life to come)までも.と云ふ意味を含んでゐる。

5. Answer, reply.(答へる)

Answer は question(質問)に對して與へられ. reply は assertion(主張)に對して與へられるものである。我々は肯定(affirmation) 報告(information) 反對(contradiction)の目的を以て answer し. 說明(explanation)或は論駁(confutation) するために reply する。answer は口頭又は筆頭を以てなされる。而し乍ら reply. は個人的談話(personal discourse) に於てのみ使はれる語である。

6. Applause, acclamation.(喝采)

これ等の二語は共に公衆の示威運動(public demonstration)を意味する言葉であり. 前者は手又は足に依つて生ずる音を用ひて喝采することを意味し. 後者は叫び聲を以てする場合に用ふ。前者は賞讃(approbation)の證に使はれ. 後者は認可(sanction)或は尊敬(respect)の表示として爲される。

例. "Amidst the loud applauses of the shore Gyas outstripped the rest and sprang before."(岸邊の轟くばかりの拍手喝采の中に. ギヤスは人ごみを走り出て前へ飛び出た。)

"When this illustrious person touched on the shore, he was received by the acclamation of the people."(この知名の士が上陸した時に.群集は轟くばかりの喊聲を上げて彼を迎へた。)

7. Badly, ill.

兩者共に.行爲或は事物の性質を限定(modify)する。然れ共. badly は行爲(或は動作)に附隨して用ひられること多く. ill は主に性質(quality)を限定する語として用ひられる。

例. "The thing is badly come."(これは遣りしくじつた。)

"an ill-judged scheme."(判斷の誤つた計畫) "ill-contrived measure." (巧く工夫されなかつた手段) "ill-disposed person" (敵意ある人)

8. Battle, combat, engagement, war.(戰ひ)

Battle は準備(preparation)を必要とする一般的の戰時行動を意味し. combat は.特殊な又は豫期せざる戰ひを云ふ。

Engagement は.交戰の行動或は鬪爭にたづさわることを意味し海戰によく用ひられる。

War は澤山の battle が集つて出來たものである。

Battle は軍隊の間に於てのみ行はるる戰を云ひ. gain (勝つ) 或は lose (負ける)されるものである。

Combat は人又は動物に限らず. 凡て. 個々の間に行はるる爭鬪であつて. 相手を destroy(殺す) するか. 或は相手より excel (勝さる) することかを求める。

Engagement は人數に限りなく. 交戰行動を意味する。

9. Booty, spoil, prey. (分捕物)

Booty と spoil は兵語であつて. 軍事行動或は攻擊の場合に用ひられる。prey は特殊の暴行の時にのみ使はれる。soldier は booty を取り. combatant は spoil をとり carnivorous animal (貪慾な動物)はその prey(餌)を取る。Booty は勝利者に個人的に役に立つものを重んじ. spoil は彼の勝利を表示するものは何でも良い。prey は欲望滿足の對象であつて消費されるものを總て含んでゐる。一市が占領された時. 兵士共は破壞と暴行に忙しくて. Booty を澤山持ち出すことは出來ない。總ての會戰に於て. 死者の武器或は個人的財產は. 勝利者の lawful spoil (正當なる分捕品)である。hawk はその prey に飛びかゝつて. それを自分の巢に持ち込む。

10. Bravery, Courage, Valor. (勇氣)

Bravery は血 (blood) の中に存在し. Courage は心意(mind)の中に存在してゐる。後者は理性 (reason)の如何に依り. 前者は氣質(temperament)の如何に依る。

gain gain damage

Bravery は本能の一種であり. Courage は德の一種である。思慮なき者は比較的 brave であり. 理性を有し. 反省するものは. courage を持つてゐる。Valor は. 上述の兩者より遙かに高尙なものであつて. 兩者の美點を兼有してゐる。卽ち Valor は火の如き bravery と堅固なる courage を結合したものである。

例. "This brave man, with long resistance,"
"Held the combat doubtful.
Oh ! when I see him arming for his honour,
His country, and his gods, that martial fire,
That mounts his courage kindles even me!
True valor, friends, on virtue founded strong,
Meets all events alike."

(この勇敢なる人は. 長い間對抗して. 疑はしき戰を支へた。彼が名譽と. 祖國と神のために武具に身をまとへるを見る時. 彼が勇氣を鼓舞せる軍の焰は. 我が身をも燒きつくす。友よ。德に基く眞の勇氣は. 萬物に對して無差別である)。

11. Break, tear, burst. (破る。壞はす)

硝子. 米. 石の如き堅き物質は break (破る) される。然れ共. 家. 鐵道. 機械. 船の如きは break されると云はずに damage されると云ふ。

柔軟なる纖維 (soft texture) に依つて構成されてゐるもの. 例へば. 紙(paper) 革(leather) 布(cloth)の如

きものは. tear されると云ふ。

爆發 (bursting) は大抵. 極度の緊張 (extreme tension) より生ずる。hollow (空虛) な物體も極度に充滿すれば bursting する。

12. Certain, sure, secure. (確かな)

Certain は事實或は信ぜられたる事に重きを置き. sure 及び secure は物の性質或は狀態に重きをおく。fact は certain であり. persons' step (人の步調) は sure であり. house は secure である。

Certain は varying (變化する) や irregular (不規則な) に對する語であり. sure は what is unerring (錯誤なきもの) に對する語である。secure は語本來の意味に用ひらる。卽ち without care (心配なき) 或は requiring no care (心配する必要なき) の意味である。

例. "It is a defect in the English language, that there are at present no certain rules for its pronunciation; the learner, therefore, is at a loss for a sure guide." (發音に一定の規則のないのは英語の缺點である。されば. 學習者は. 確實なる手引のないため當惑する。)

"No one can ensure his life for a moment, or secure his property form the contingencies to which all sublunary things are exposed." (人は一瞬間たりとも自分の生命に安心することは出來ぬ。又. その財產を. 浮世の事物に凡て降りかゝる

災難から安全にしておく事は出來ぬ。)

13. Clean, Cleanly, pure, clear, fair. (きれい)

Clean は一切の汚れを脫すること (freedom from dirt and soil) を意味す。例へば "Clean hands" (清淨な手) の如し。

Cleanly は Clean にする習慣. 又はきれい好きな氣質のあるものに用ふ。例へば. Cleanly servant. (きれい好きな下男) 等。

Pure は. 物質元素の構成に使ふ。たとへば "pure silver" (純銀) "pure air" (きれいな空氣) "pure water" (淨水) などの如し。

Fair は積極的の意味に用ふ。clear は消極的である。Fair なものの中には輝きがなくてはならぬ。clean なものの中には汚點があつてはならぬ。天氣は Fair と云へる。何となれば. それは單に汚點を有せざるのみならず. 太陽に依つて. 活氣付けられたる輝きを有するからである。たゞ雲も霧のない事を云ふ時は clear と云ふ事が出來る。

14. To come, arrive

人や物は凡て come する。人のみ. 或は擬人されたもののみ. arrive すると云ふ。

Come は. 時や手段を問題にしない。而し arrive は或る特殊の時期或は狀態に重きを置いて用ひられる。

例. "The coming of our Saviour was predicted by

the prophets."（主の來ますことは．豫言者に依り豫言せられたり。）

"The arrival of a messenger is expected at a certain hour."（使者は何時何時に着く筈だ。）

15. Command, order, injunction.（命令）

Command は命令的（imperative）である。それは權威の最も强き實行である。Order は訓令的(instructive)である。それは希望の發表である。Injunction は決定的（decisive）である。それは order よりも强い權利の執行であり．command よりは弱い。

Command と Order とは肯定的であり．Injuncton は肯定的であると共に否定的である。

16. Congratulate と Celebrate.（祝ふ）

Congratulate は人に適合することを意味す。例へば "He congratulated me on my good fortune."（彼は私の幸福を喜んで吳れた）の如し。

Celebrate は．祭典或は紀念碑に依つて記憶に留め．嚴肅に稱讃され尊敬されるものに適合することである。

例．"His Majesty's birthday is celebrated with much splendour."（天長節は仲々立派にお祝ひされる。）

17. Cost, price, value, worth, expense.

Cost は代價を拂ふべきもの．或は費さるべき機會を云ふ。

Price は．買はれる物に對して拂はねばならぬもので

ある。

Value は．良いもの．又は良いと認められたるものに對して適應さるべき一般的な不定な語である。Worth は．良いと認められてゐるもののみに用ひられる。されば事物の value は人の氣分．狀態と共に變化する。同時に於ける同一物でも．見る人の目に依つて value は異なる。而し．worth は已に認められたる value であるから．value よりも固定的であり永久的である。我々は趣味に依つて決定さるべき．外界事物の value は論ずることが出來るが．法則に依つて決定されたる worth は論ずることが出來ぬ。

Expense は．實際に消費さるべきものを云ふ。例へば "expense of a steam launch."（蒸氣船の費用）"expense of a war"（戰爭の費用）の如きである。

我々は "The price is dear."（値段が高い）或は "The price is cheap."（値段が安い）などの如き形を用ひてはならぬ。必ず．"The price of an article is high." "The article is dear." "The price is low." "The article is cheap." としなければならぬ。

18. Damage, hurt, harm, injury, mischief

Injury は．最も一般的な語であつて．單に．不都合に起つたものを意味す。他の語は皆 injury の方法をあらはす言葉である。damage は．物の value を失はせる injury を意味し．hurt は物の健全を破壞することであり．harm は．迷惑と不都合を伴ふ injury を意味

する。 mischief は事物の秩序と統一を失はせる injury の事を云ふ。

我々は災難或は神の配濟に依り. damage や harm を受けることはある。 而し. mischief は人の偏俠或は無思慮から發生するものである。

Injury は肉體的にも精神的にも適用される。商賣は injury をうけるかも知れぬ。建物も亦 injury を受ける。人間も墜落に依つて injury を受ける。而し船や建物は. 一般に damage されるのである。

19. Delicious 或は good (うまい。) 及び sweet (あまい)

蜜或は砂糖の如き口あたりのよい味を持つてゐるものは sweet (甘い) と云はれる. Delicious は. 味覺. 嗅覺の如き感覺に依つて生ずる氣持ちよさを云ふ。例へば. delicious food (うまい食物) delicious fragrance (よい匂ひ) の如きである。

good は delicious の代用に用ひらるるが. 後者の方が前者より意味が強い。

20. To defend, to keep off, to resist, to protect など (防ぐ.)

我々は.自己を傷けんとするものに對しては. keep off (遠ざかる) resist (反抗し), guard against (用心する) して. 自己の身を. defend (守る) する。要するに我々は.悪いものを Keep off, resist して. 良いものを defend する。人々は. 階級, 地位の如何に拘はらず他人を

defend することは出來るが. 弱者を protect (擁護する) し得るのはたゞ強者のみである。

此等の言葉を混用するものも又我國學生の Common mistakes である。次の諸例に用ひられた誤用に注意せよ。

例. "Castles were built in olden times to defend the enemies" (敵を防ぐために. 昔は城を築いた。)

"Umbrellas are used to defend the rain or sunshines." (洋傘は雨や日光を防ぐ爲に用ひられる)

以上の諸例は皆 defend の誤用を示すものである。次の如くに改めねばならぬ。

"Castles were built to protect the people from their enemies."

"Umbrellas are used to keep off the rain or sunshines."

"They protected the town from floods by high banks." (人々は. 高い堤防を築いて洪水から町を守る)

"They kept out the water with bags filled with earth." (人々は土を一杯入れた嚢で水を防いだ。)

21. Eager, earnest (熱心な)

Eager は慾望 (desire) 或は激情 (passion) を qualify し. earnest は. 希望 (wish) 又は感情 (sentiment) を qualify する。前者は. 肉體的の場合も. 精神的の場合も共に用ひられ. 後者は主に. 精神方面にのみ用ふ。例へば "A child is eager to a plaything." (子供は玩具をとらうとしてやきもきする。) "A hungry person

is "eager to get food."(飢たるものは．食を求める事に熱心である。) "He is earnest in solicitation." (彼は熱心に懇請してゐる。)の如きである。 Eagerness は大抵惡いものである。それは．出來る丈け早く抑制すべきである。我々は eager となる．實質的の理由をつかむことは出來ない。Earnestness は．一般に良い意味に用ひられる。

22. Event, incident, accident, adventure, occurrence. (出來事)

是等の語は．世の中に起つて來る事柄を意味す。Event の意味はたゞ此れ丈けである。

その他の語は event に附隨的の意味が加つたものである。 Accident は不愉快な出來事を意味し． adventure は非常の出來事(extraordinary event) の事を云ひ. occurrence は日常の出來事を意味す。 Incident は個人的の出來事(personal event)をあらはす。Event は時機の觀念を排除し．"accident" は手段の觀念を拒絕する。 incident, adventurs, occurrenceは兩方の場合に適用される。

23. To fall, drop, droop, sink, tumble.

Fall は一般的の語であり．他は特殊的の語である。drop は大抵．粒 (drop) の形をなして突然 fall するものを云ひ。droop は局部だけに於てのみ．drop することを云ふ。sink は徐々に fall する事を云ひ．tumble は醜き形を成して．或は不自然なる方法で fall することを云ふ。瀧の水は永久に．大きな塊をなして fall してゐる。雨は部分的に(全國一樣でないこと) drop する。池の水は sink low(低い)してゐる。頭は droop する。身體は高處から fall することも出來れば．drop することも出來る。肉體は土中に sink down する。身體は又．災難に依つて tumble することもある。

24. Famous, celebrated, renowned, illustrious.

Famous は不定的な意味を有する語である。それは．往々にして名譽(honour) でも不名譽(dishonour) でもないと云ふことをあらはす。 Famous は上述の諸語の中．惡い意味に用ひられる唯一のものである。

Celebrated は技術．學術などに於て功績あり．又才能あると認めれたものに使ふ。この語は主語に尊敬の意味を與へる。Renowned は．傑出せる資格の所有．努力の成功或は輿論の一致などの場合に用ひられる。此の語は．主語に大なる名譽と光榮を與へる。Illustrious は．此等の人を知名ならしむる實質的の資格を意味し．尊敬と崇拜の念を固うするものである。

人は．畸人を以て famous とすることは出來る。藝術家.(artist)作家(writer)俳優(player)を以て celebrated とすることも出來るし．軍人 (warrior) 政治家 (statesman) として renowned となることも出來る。又．公爵 (prince) 元老員(senator) となつて illustrious になることもある。

25. Feast, banquet, dinner. (饗應)

日本語で「御馳走」と云ふ言葉が盛んに使はれる如

く. feast も盛んに使はれる傾向がある。『御馳走』は bauquet 或は. dinner と飜譯さるべき方が良い場合がある。人は. 數人の友人を. dinner に招待することが出來るが. 被招待者の數も多く. 食物も特に豐富なる時は. これを Banquet 又は Feast と呼ぶ。

Entertainment(宴會) の場合などは. 食事中. 或は食後に. 何か面白い余興が演ぜられる。

Feast, banquet, dinner, entertainment は to be given と云ひ. to be opened 或は to be held とは云はない。

26. To find, find out, discover.

Find は偶然に我々に見えることを云ひ. find out は努力の結果得らるゝ事である。我々は市中を歩きながら色々な物を find する。又我々は勘定書に眼を通じてその間違ひを find out する事がある。我々は學習中難しい所を find out することもある。Discover される物は常に珍らしい未知なものでなくてはならぬ。此の珍奇な未知のものも. 一度 discover されれば新しいものとなるのである。

Find out と discover は. 相互に. 根本的に其の用法を異にしてゐる。Find out は日常密接なる物に對して用ひられ. discover は科學的の物に用ひらる。學者は其の研究の對象を find out し. 攻究家は他人の見逃す所のものを. discover する。

27. Furniture, utensil. (道具)

Furniture は家庭に於て. 便利又は裝飾のために使用

Furniture Collective noun

せらるる物品を云ひ. utensil は. 一般に料理に使用せらるゝ道具を云ふ。

Furniture は集合名詞(Collective Noun)であつて複數形が無い。utensil には複數の形がある。

28. Game, sport, play.

Play と game は共に. 精神的肉體的の遊びを意味す。而しながら play は非組織的な遊びを意味し. game は組織的な遊びを意味す。play は兒童に使はれ. game は兒童以上の年配者の遊びに用ひらる。Sport は目的の遂行を含む. 肉體的の運動である。雙陸 (backgammon) や骨牌(card)の如きは game であり. 狩獵や徒歩などは sport と云つた方が適當である。

29. To gather, collect. To gather Collect

gather は單に事物を一と所に持つて來る事を意味し collect は集まつた個々の物を一つにまとめる觀念を有してゐる。我々は諸所に散在してゐる物を gather し. 又. 石を gather して堆積を作る事が出來る。個々の軍艦は collect されて一艦隊を編成す。Gathering は必要或は便宜の行爲を意味し. Collecting は. 考慮と選擇の行爲を意味す。卽ち. 召使は机の上から本を gather し. 考古學者は貨幣を collect するなどその例である。

35. Great, large, big. Great large big

Great の意味は以下の如し。

(a) dimensions(容積) の大きい事。例."great house"

dimensions great house

(大きな家). "great ship" (大きな船). "great plain" (大平原). "great distance"(遠距離). "great breath (大きい息). "great length" (大層長い事).

(b) 數の多い事。例. "a great company"(大人數)の如し。

(c) 長い間續くこと。例. "a great period" (長い期間). "a great while" (長い間).

(d) 優勢なる事をあらはす。これは抽象名詞と共に用ふ。例. "great strength"(大力). "great love" (大きな愛). "great power" (偉大な力).

(e) 傑出せる材能を有すること。例. "a great hero" (大英雄). "a great scholar" (大學者).

(f) 背の高い(lofty). 第一の (foremost). 主な(principal) 等の意を表はす。例. "great men" (背の高い人). "great seal" (國璽). "great marshal" (大元帥) など。

Large は廣さ(space). 範圍 (extent) 及び分量(quantity) などに用ひられるが適當である。"a large house" (大きな家); "a large army" (大軍隊) など。

Big は擴張(extension)と. 能力(capacity)を表はすに用ふ。この語は往々にして. 重さ(weight). 醜貌(clumsiness). 下品 (less dignity)を暗示する。例へば. "a big boy"(大きな少年)."a big whale"(大きな鯨)."a awkward man"(大きな不恰好な男) など。

Great は一般に. 轉義に用ひられる。large と big は

時々(occasionally)用ひられる。noise (音). distance (距離). multitude(群集). power(力) などには great が使用されるが. portion(部分). share(分け前). quantity(分量)の如きものには large を使ふ。Big は "a mind big with conception"(想像をはらんでゐる心).或は"an event big with the fate of nations (國民の運命をはらんでゐる事件) などの場合に用ひられる。

練習問題 II.

A.

次の文章中に於て. 不適當なる語あらば. 此を適當なるものに置き換へよ。

1. Your clothes are broken. (御前の着物は破れてゐる)。
2. What a great apple this is! (まあ何と云ふ大きな林檎でせう。)
3. The price of this book is very cheap. (此の本の値段は大へん安い。)
4. This chair is clear; please sit on it. (この椅子はきれいです。どうぞ御掛け下さい。)
5. I invited a few of my school-mate to a feast. (僕は二三人の學友を御馳走に招いた。)
6. The police have made a scheme to defend the small pox. (警察では天然痘の豫防計畫を立てた)
7. The battle between Japan and China lasted nearly two years. (日清戰爭は殆んど二ヶ年續いた。)

8. The outside of my house was a little broken by the storm. (私の家の外側は暴風雨で少し壊れました。)

9. We congratulate the new year in visiting and receiving our friends. (私等は. 知人を訪れたり. 迎へたりして新年を祝ふ。)

10. Some of the booty was presented to various schools as a trophy of the late war with Russia. (分捕品がこの問の露國との戰爭の戰利品として方々の學校に配られた。)

B.

以下の邦文を英文に飜譯せよ。

1. あなたは此の鐵の棒が折れますか。
2. 河の水はスッカリ* 澄んでゐます。
3. 私は昨夜獨りで居て餘程淋しかつた。
4. 私共はヤット* 此の文章の誤りを見出した。
5. 此の品物は高價だけの價値はありません。
6. 酋長は大勢の武士* に附き從はれてゐます。
7. 二三日前に外務大臣は各國の公使*を招待して. 盛大なる饗應を致されました。

(2) スッカリ……quite (4) ヤット…… at last
(6) 武士……warriors (7) 各國公使…. Representatives of every Power.

---

30. Hope と Wish

Hope は實現し得る慾望のみを云ひ. 決して實現し得ざる慾望には用ひない。

Wish は hope よりも意味が廣く. 實現し得る慾望と同時に實現し得ざる慾望をも云ひ表はす。hope と云ふ動詞はその後に shall. will の如き單純未來の動詞を伴ふことが屢ある。而し乍ら. 主文 (Principal clause) 中に wish が用ひられ. 事實に反對のことを表はす時には. 從屬文 (Subordinate clause) 中の動詞は過去を用ひなければならぬ。

例 "I hope it will be fine to-morrow." (明日は天氣になるでせう。)

"I hope to call upon Mr. Yoshii to-day. (今日は吉井さんを訪問し度い。)

"I wish I could be a bird." (鳥になれば良いのだが。)

"I wished I had been there." (其處に居れば良かつたのに。) この文章は實際は其處に居なかつたと云ふことを表はす。

最後の例に見る如く. wish が過去である時は. 從屬文中の動詞は過去完了(Past perfect)にしなければならない。

31. House, home, family.

House は建物を云ひ. Home は人の棲處を云ふ。例へば "His house was burned so he made his home in a hotel for a time." (彼の家は燒けたので. 彼は暫くの

間ホテルに住んでゐた。）などの如きである。我々は決して. "He returned to home." (家へ歸つた。) と云つてはならぬ。必ず "He returned home." と改めねばならぬ。又. "He is in home." (彼は家に居る。) と云ふのは誤りで "He is at home." の方が正しい。

Family の代りに house を使つてはならぬ。例へば. "His family (house ではない) was poor." (家内は貧乏であつた。) の如く用ふ。

32. Interesting, amusing, pleasant.

Interesting なるものは. 人の注意を引き. 教訓と慰安 (amusement) を與へる。例へば. "an interesting story." (面白い話). "an interesting occupation." (面白い職業). "an interesting person." (面白い人) など。

Amusing なものは人を喜ばせる。何となればそれは精神的の努力なくして. 人の注意を容易に引くからである。それは. 往々にして笑ひを催させる。而るに interesting なものは. 深遠な面白味を與へる。この意味の相違を以つて. amusing は次例の如く使はれる。例. "an amusing story." (面白い. 可笑い物語). "an amusing sight." (面白い光景).

Pleasant はこの兩者よりも遙かに一般的である。兎に角. 精神的に. 感覺的に氣持の良いものは pleasant である。例. "pleasant place." (愉快な場所). "pleasant weather." (氣持の良い天氣). "a pleasant journey." 愉快な旅行) 等。

33. Journey, travel, voyage, trip.

Journey は或る場所から他の場所へ旅行することであり. voyage は海上を旅行することで. trip は短い journey 或は短い voyage を云ふ。

我々は England の諸地方に journey をし. 印度諸島に voyage をし. 獨逸に travel する。

Journey は私用の爲にするものであり. travel は慰安或は見聞を獲るためにする。voyage は貿易の目的を以つて. 船長或は商人に依つて行はれる。Journey は日を以て數へらる。例へば one day's journey. (一日旅行) の如きである。voyage 及び travels は月 (month) 或は年 (year) を以つて數へらる。

我々は "to go on a journey, voyage, trip." 或は "to take a journey, voyage, trip" などと云ふ。

我々は. "I take a travel to Osaka last summer." (私は此の夏大阪へ旅行した。) と云つてはならぬ。Travel は名詞の場合は常に複數形を用ふ。例. "His travels in China made him famous." (彼は支那を旅行して有名になつた。)

34. To lay 及び to bear, to bring forth (生む)

Animal (動物) は其の子を bear し. bird は egg を lay する。

Fish や frog は spown すると云はれる。

35. To lend, to rent 及び to hire 或は hire out.

我々は自分の物を他人に lend してそれから何等の

報酬を取らない。我々は自分の所有たる house や farm (農園)を他人に rent して. 其れより. 報酬として rent (借用料)を取る。 我は又一定の賃錢を以て boat や house を hire 或は hire out する。

上述の用法の外に. rent と hire とは相反する用法がある。 即ち自分の家の無い人は. 家主から家を rent (借りる)し. boat や servant の必要な人は其れを hire (傭ふ)する。

Ship(船)はその所有者或は需要者に依り. 一定の期間或は一定の航海の間 charter(契約する)される。

例. "He lent me money though he had to borrow some himself." (彼は自分で金を借りねばならぬ身でありながら私に金を貸して呉れた。)

"No one would rent him a house but at last he rented a small one." (誰も初は家を借して呉れる人もないらしいのに. 遂には小さな家を一軒借りた。)

"You can probably hire a boat, but I do not know who hires out boats." (貴君は端艇を借りる事が出來るかも知れませんが. 私は貸して呉れる人が分りません。)

36. To leave, take leave, bid farewell, 或は adieu.

To leave は. 資格無き行爲 (unqualified action) であり. 思慮なき物體に用ひらる。 或は又. 全然我々の情意活動の無き時に用ひられる。我々は便宜の時はいつ

でも人を leave する。

To take leave は知人間に於て. 暫時別れる時に使ふ別れの挨拶である。

To bid farewell 及び adieu は to take leave よりも遙かに嚴肅なる挨拶であつて. 永久の別れとなる時に用ゆ。我々が取りあつかひ度くないと思ふ物はこれを leave し. 好きなものでも捨てねばならぬ時は. これに take leave する。今も尙ほ大なる執着を感じてゐる物は. これに bid farewell をする。

37. Little, Small.

Little は great に對し small は large に對す。(第30項參照) child はその年齡(age)と大きさ(size)に關しては little であり. 大きさ(size)のみに就いて云へば small である。

38. Look, see, behold, view, eye. (見る)

我々は有意的に(voluntarily) look し. 無意的に(involuntarily) see する。眼(eyes)は see し. 人 (person) は look する。 ぼんやりした人は物が附近にある事を意識しない中は物を see する。 我は seeing しないで look することが出來るし. looking しないで see する事が出來る。 近眼の人は. 遠いため視覺を刺激しないものを look する。 behold は繼續して look する事であり. view は總ての方向を look する事で. eye は earnestly に look し. 或は横目(side grance)で look することを意味す。

39. To look, appear (見える)

事物の look は. 其の感覺に與へる印象に重きを置く。Look と云ふ語は常に實在の事物に對して用ひられる。Appear は. 外物若しくは表面的のものに用ひらる。若し吾々が "A person looks to be ill." と云へば多少確言的にして明瞭なる. 病氣の徵候を有する事を意味し. "He appears to be ill." と云へば前者より意味が曖昧になつて來る。それは疑問の餘地を殘し. 誤りの可能を認めるのである。

40. To permit と to pardon(許す).

To permit は積極的で. 決定的の承諾を意味す。pardon は自分の方から或は先方の懇請に依つて與へられる。

我々は道德的犯罪を pardon する。我々は長上者として. 人を pardon するのである。

例. "The cadets are permited to go beyond bounds on holidays." (候補生達は休日は. 範圍を越えることを許されてある。)

"Though he had broken the rules he was pardoned since it was his first offence." (彼は規則に違反しましたが今度は始めてですから許してやりました。)

41. To play, amuse one's self.

日本語の遊ぶと云ふ語は大人にも子供にも用ひられるので. 屢誤用される。英語に於ては自動詞の play は

たゞ子供の場合にのみ用ひられる。men と women が遊んでゐる時は次の如き形が用ひられる。"Men and women amuse themselves."(男と女が遊んでゐる。)

他動詞の play の用法は自動詞の play の用法の如く限られてはゐない。

42. To practice.

此の動詞は日本の學生に依つて屢用ひらる。我々は動作の反覆と. 習熟を必要とする所へは practice を用ふ。されば. 吾々は單に慰みのためのみならず熟達(skilful)を目的として. 毎日 sport を practice する。我々がたゞ amusement の爲に sport をしてゐる場合は. 吾々は practice するとは云はない。

若し. practice と云ふ動詞を用ひないで遊戯を云ひ表はす時には次の如き形を用ふ。We fenced."(擊劍をした。)"We ran races."(徒步競爭をした。)"We shot at a mark."(鐵砲をうつた。) "We jumped."(跳躍をした。) "We went fishing or hunting."(魚釣り或は狩に行つた。) 決して"We practice fishing. 又は We practice fencing. と云つてはならぬ。

43. Put on と wear.

Put on は短い時間の動作を云ひ. wear は繼續的狀態を云ふ。

例. "We put on our hats when we go out and wear them until we come in." (私等は外出の時帽子をかぶり. 入るまでかむつてゐる。)

"We put on our clothes in the morning and take them off at night." (私等は朝着物をきて夜脱ぐ。)

44. Say と tell; speak と talk.

一般に云へば say と tell は他動詞であつて目的をとる。speak と talk は自動詞であつて. 直接目的(direct object)を取らない。

Say は word を以て觀念を他人に傳へることである。我々は物語(narrative)に關係してゐるもの. 或は物語りの形式を有してゐるものを tell するのである。

Say は心に起つた事を他人に傳へ自分の思想感情をその儘他人に發表する事である。Tell は自己或は他人に關する出來事或は事情を他人に傳へる事である。

To speak は. 單に音聲を發する事を云ふ。即ち一語でも二語でも speak する事が出來る。我々は色々な動機から. speak する。又 pleasure の爲に speak することもある。我々は他人に speak to.(話し掛ける)したり或は他人と speak with したりする。我々は通常他人に talk する。

例. "One of them talked a good deal, but the other said only a few words." (一人は隨分喋舌つたが. もう一人はほんの二言三言言つたきりだ。)

"Children begin to speak when they are about a year old, and they can then say a few common words." (子供は丸一歳位になると物を云ひだし.

それから少し宛日常の言葉を云ふ事が出來る。)

"He spoke for two hours, but the people were talking and I could not hear what he said." (彼は二時間も演說してゐたが. 人々が喋舌つて居たので. 私は彼が何を言つたか聞くことが出來なかつた。)

"They told stories to one another until their mother told them to stop." (彼等はお互に御話をしてゐたので. 遂々御母さんがお止めなさいと命令しました。)

"He spoke about various unimportant matters but he did not tell me what I wanted to know." (彼は色んな. つまらぬ事を喋舌つて. 折角. 私が知り度いと思ふ事は何も云はなかつた。)

"Men's reputations depend upon what others say of them; reports are spread by means of one man telling another." (人の評判は他人のうわさに依る。風聞は次から次へと云はれる爲に廣まつて來る。)

45. Sickness, disease.

Disease は長い病氣を云ひ. 身體の器官に重大な影響を與へるものを云ふ。例へば "Consumption" (肺病)や "Heart disease" (心臟病)の如きを云ふ。

Sickness と云ふ語は disease 以上に屢使用される。それは. disease の如く長く身體機能に影響を與へるものではない。それは身體組織の壞れてゐることを意味

する。

Sickness は通常人の身體組織を破壞する總ての病氣を含む。"Cholera" (虎疫)."Small pox"(天然痘).typhoid fever"(腸室扶斯). "malaria"(マラリヤ熱). "dysentery" (赤痢)などの如きを云ふ。

Sickness よりもつと輕いものは aches 或は complaints と云ふ。例へば. "tooth-ache" (齒痛). "head-ache,, (頭痛)."cough"(咳)."cold"(寒冒)."bowel-complaint'(腹痛). "chilblains" (凍瘡). などである。

以下の文章に注意せよ。

"What is the matter with him?" (彼はどうしたのでせうか。)

"He has consumption (or any disease, sickness, ache, or complaint). (彼は肺病に罹つてゐます。)

"What is the matter with his hands?" (あの人の手はどうしたでせう。)

"He has chilblains." (凍傷をやつてゐるのです。)

"Of what did he die?" (彼は何の病氣で死にましたか。)

"He died of small pox." (彼は天然痘で死にました。)

"With what sickness is he troubled?" (あの人は何の病氣で苦しんでゐますか。)

"None, he has only a bad cold." (いゝえ. たゞ惡い風邪を引いたきりです。)

"What disease has he?" (彼は何の病氣ですか。)

"None, he was injured by a fall." (いゝえ. 落ちて負傷をしたのです。)

不時の災難や負傷を云ふ場合は次の如く云ふ。

"He fell from a mast and broke his leg." (彼はマストから落ちて足を折つた。)

"He was scalded by a boiler explosion." (彼はボイラーが破裂して火傷をした。)

"He was burned by the explosion of a magazine." (彼は火藥庫の爆發の爲に燒け死んだ。)

"He was slightly wounded in the arm by a bullet." (sword, bayonet) (彼は銃彈で腕を負傷した。)

"He was severely wounded by the explosion of a shell." (彼は榴彈の爆發に依つて重傷を負つた。)

46. Subject, vassal.

一國の人民は總て其の國の支配者 (ruler) の subject である。古代に於て. baron, king, daimyo(大名) 等の如き長上から土地をもらつてゐたものを vassal と云ふ。而しこの語は現代は殆んど用ひられない。Servant は一般に他人の用事をするものを云ふ。但し高位の人の servant は特に attendant と云ふ。Retainer は主に軍事に關する用務を爲す者を云ふ。

47. Suitable, proper, able.

Suitable は或る使用, 又は目的に適することを云ひ. proper は本質及び性質に適合する事を云ふ。卽ち總て

の點に於て suitable なものは proper なものである。されば suitable の意味に於ける proper の用法は制限されてゐる。何となれば. 總ての點に於て suitable なものは少いからである。

Able は生物にのみ用ひられ無生物には用ひられぬ。Suitable は生物, 無生物共に用ひらるけれ共. 主として後者の場合に用ひられる方が多い。

例. "The disposition of the people is very suitable for military men." (この人民の氣質は大層陸軍の軍人に適してゐる°)

"The soil is suitable for growing all kinds of grain, but on acount of the lack of railroads, the people are not able to send the produce to a distance." (土地は總ての穀物の成長に適してゐるが. 鐵道の便の無い爲. 產物を地方に出すことが出來ぬ。)

"There was no suitable means of defence against attack." (攻擊に對する適當な防禦が無かつた。)

"Summer is not a suitable season for study." (夏は勉學の時節ではない。)

"Water is the proper element of fish." (水は魚の本來の要素である。)

"It is proper for a soldier to obey his superiors under all circumstances." (如何なる事あるも長上の命に從ふが兵卒たる者の本分である。)

實際使用するに當り. 若し proper を使ふべき明確なる理由を發見する事が出來ない時は suitable を使つた方が良い。

48. To take と to get. to go and bring (=fetch)

動詞 get の代りに take を使つてはならぬ。

"May I go to get (take ではない) my notebook?" (ノートブックを取りに行つても宜しう御座いますか。)

"If you want the book I will get (take ではない) it for you from the library." (若しも其の本が御入り用なら圖書館から取り寄せてあげませう。)

Get は procure (供給する). 或は obtain (獲得する) の意味を持つてゐる。此の意味は take には無い。

Take の最も普通なる意味を擧ぐれば次の如し。

(a) To seize (捉へる). to capture (捕へる)。例. "He took a ship." (彼は船を捕獲した)。

(b) To interest (興味を感ぜしむ). to charm (魅する)。例. "He was so taken with his prospect, that he had no patience." (彼は此の前途に大層興味を感じた爲. 我慢する事が出來なかつた。)

(c) To choose (選擇する). to elect (選ぶ). 例. "Students usually take the first word which is given in the dictionaries without taking the trouble to look at the other words, or the examples." (學生達は何時でも字引に與へられた最初の言葉許りを

選んで. 他の語や凡例を見る勞を取らぬ。)

(d) To employ (傭ふ). to use (使ふ). to demand (要求する). to require(要求する)。例. "It takes so much cloth to make a coat." (上衣を作るには大層澤山の布が入る。)

(e) To accept (受取る). to receive involuntarily(無意識に取る)。例. "They took what was given to them." (彼等は自分等に與へられたものを受取つた。)

49. To take と receive.

我々は物や人からは take する。而し receive は人のみに用ふ。本を table から take する事は出來る。又. 自分に送られた小包を receive する事は出事る。"He took a telegram." (彼は電報を受取つた) と云つてはならぬ。何となればその行爲は自發的のものでないからである。この場合は是非共 receive を使はねばならぬ。

50. To lead と to take 或は to bring(連れる).

動詞 take 或は bring の代りに lead を用ひてはならぬ。

盲目の人或は動物の如き無能力者を連れる事を lead すると云ふ。而し日本語の「連れる」を英譯する場合は bring 或は take を用ひるのが普通である。例へば. "May I bring a friend with me the next time I come?" (今度來る時に友人を連れて來ても宜しう御

座いますか。) 或は "I took him with." (私は彼を連れて行つた。) などの如きである。

方向を訊ねる場合によく誤つた言ひ方が用ひられる。例へば. "Please lead me to the park." (公園へはどう行きますか。) と云つてはならぬ。此の場合は必ず "Please tell me the way to the park." と云はねばならぬ。"Please teach me the way ....." も誤りである。

若し自分を連れて行つて貰ひ度い時には. "Please conduct me to the park." 云ふ。

51. To take care of と to take heed, to pay attention to.

To take care of は to be careful of (注意を拂ふ) 又は to render service to (用を務める) と云ふ意味である。この語は一般に無生物に用ひられる。されば. "I don't take care of his teaching." (彼の教授に注意を拂はぬ) と云ふのは良く無い。それは "don't heed his teaching." と改めた方が良い。

To take heed は內面的又は精神的の惡に對して注意する事を云ふ。

Heed は道德的行爲に重きを置くものに用ひられ. care は比較的重要ならざるものに用ひらる。大人は take heed を必要とし. 幼兒は to take care を必要とする。

Heed は. 注意を要するものを思慮する意味を持つて

ある。此の點に於ては heed は attention と一緻する。例へば. giving heed 或は paying attention の如きである。されば前者は caution（注意）或は instruction（訓令）の如き. 直接の手段を以て他人より與へられたる notice に用ひられ. 後者は. 將に着手せんとする事に對して拂ふ注意を意味する。例へば. "He takes heed of his father's instructions."（彼は父の言ひ付をよく聞く）"He pays attention to the lesson which is set him to learn."（彼は習ふべき詞業に注意を拂ふ。）の如きである。

To mind, to care for を用ふべき處に to mind of, to care of を使つてはならぬ。

動詞 to mind は他動詞であり. to pay attention to と云ふ意味であり. to care for は自動詞で. anxious（いらいらする）又は solitious about（心配する）の意味である。此等の二つの動詞は屢々同樣に使用せらるる爲日本の學生にとつては mind だけを使ふ方が簡單であらう。誤りは大抵否定の場合に起る。何となれば邦語の「かまふ」は大抵の場合否定に用ひられるからである。

例. "My teacher scolded me but I did not mind it."（先生は僕を叱つたが. 僕は何とも思はぬ。）

"He did not mind the firing but went on with his dinner."（彼は午砲などはかまはずに食事を續けてゐた。）

以上の mind の代りに care for を用ひられても差支へない。

"Please go on with your writing and do not mind me."（どうかどんどん御書き下さい。私などはかまはずに。）

"Do not mind me, if you wish to do something else."（何か外に爲度い事が御座いますなら御遠慮なく。）

邦語の「かまふ」は屢々 to meddle with 或は to interfere with と譯される事がある。

"It is better not to interefere with a drunken man."（醉輩には. かまはない方が良い。）

52. Tool, instrument, implement（道具）.

Carpenter（大工）や blacksmith（鍛冶屋）その他の職人の持つてゐる道具は tool と云ふ。Instrument はもつと高尚な仕事に用ひる道具を意味す。例へば surgical instrument（外科器械）, drawing instrument（圖書器械）, musical instrument（樂器）などの如きものを云ふ。Implement はかくの如く通常の道具には使はれない。戰爭の implement と云へば. 武器一切を意味す。商業の instrnment は商賣に使用する總ての物を含む。

Instrument 及び tool は結果を生ぜしむる手段を言ひ表はす時に用ふ。但し前者は主として良い意味に使はれる點に於て後者と異つてゐる。高い地位に居る人人は. 國民に大變化を齎す instrument となる事がある。

間諜及び密告者は政府の tool と云ふことが出來る。

53. To try(自動), to try(他動).

自動詞の try は to exert strength (力を用ふ。) to endeavour(努力する。) to make an effort(努力する) to attempt (試みる) などの意味を持つてゐる。例. "to try to learn(勉强しやうと努める). to try to lift a weight." (錘を上げやうと努力する). "The horses tried to draw the load. (馬が荷を引かうと努力した。)

他動詞の try には次の如き意味がある。

(a) To prove by experiment (實證する), to make experiment of(實驗をする); to examine(調べる), to prove (證明する), to test (試みる)。例. "to try the speed of a ship." (船の速力を試驗する). "to try the strength by wrestling. (相撲を取つて力をためす。)

"His patience has been well tried in this misfortune." (この不幸で彼の忍耐ある事が良く證明された。)

(b) To subject to severe trial. (激しい試みをする); to put to test. (ためす)。例. "The fire seven time tried this." (火が七度これを試みた。)

(c) To examine judicially. (法律上で調べる). to examine by witness. (實證を以つて調べる). 例へば "Causes tried in court." (法廷で調べられた事件) などである。

日本の學生は. 屢々上記の意味の無い場合にも他動詞の try を用ひる事がある。即ち to try a race. (競爭をやつて見る). to try fencing. (劍術をやつて見る). to try an excursion. (遠足を試みる). の如く使ふ。而しながら我々は race や fencing 或は excursion を他の物と比較したり試驗したり又は證明する事は絕對に出來ない。されば, 此等の場合に try を用ひるのは良くない。try の誤用の原因は, 直接に日本の語の「やつて見る, 試みる, する」などを飜譯するからである。比較(comparison), 試驗(testing), 或は證明(proving)の意味のない場合は絕對に他動詞の try を使用してはならぬ英語に於ては, 自動詞の try の方が他動詞の try よりも多く用ひられる。而し, 日本の學生は使つてはならない所へ他動詞の try をよく用ひる惡い習慣がある。

54. To win と to conquer(勝つ).

To win は to be successful(成功する). 又は to gain the victory (勝利を獲る). と云ふ意味である。例. "to win a game"(勝負に勝つ). "to win a battle" (戰に勝つ) 等。

To conquer は to gain or conquer by force (力を以て勝つ, 或は獲る). 又は to gain dominion over (支配權を握る). と云ふ意味である。例へば "If thou conquer Rome." (汝若し羅馬を征服するならば) の如きである。To conquer は又, to subdue or overcome by mental or moral power (精神的或は道德的力を以て壓

倒する或は打ち勝つ). 又は to overcome (打ち勝つ). と云ふ意味がある。例. "to conquer difficulties"(困難に打ち勝つ). "to conquer opposition"(反對に打ち勝つ。)

"They won a great victory but could not conquer the people." (彼等は大勝利を博したが人民を征服する事は出來なかつた。)

55. Wonder, admire, surprise, astonish, amaze.

Wonder は astonishment より弱く amazement よりはずつと弱い。 wonder は必ずしも love(愛), esteem (尊敬), approbation(稱讃) の意味を含んでゐない點に於て admire と異つてゐる。

Surprise と astonishment は共に豫期せずして發生せる事柄に用ひる。surprise は突然に我々を襲つて來る。我々が豫期してゐる事が起らなかつた場合にも我々は surprise される。 卽ち居ると思つて搜してゐる友人が居なかつた時などの如きである。

Astonishment は surprise 以上に豫期せざる出來事に依つて起される。例へばどう考へても數百里の遠方に旅行して居るべき筈の友人がフイト自分の家に居た時などは我々は astonish されるのである。我々は自分の意向に反した出來事を見る時 amaze されるのである。

Wonder と云ふ動詞は自動詞であつて, 決して to be wondered の如く passive form に用ひられない事に注意せよ。動詞 surprise は他動詞であつて, その passive form である。To be surprised は to wonder と同意義に

用ひられる事がある。 我々は決して I was wondered 或は I surprised at と云つてはならない。"I was surprised to see the great damage done by the quick firing guns and I wondered how any of the men escaped alive." (私は遠速射砲の與へた損害の大きいのを見て驚いた。そして一體生き殘つた人があるだらうかとあやしく思つた。)

熟語の選擇に於ける誤り。

56. at last と at length.

或る事件が多大の difficulties を經て後落着した時は to be at last settled と云ふ。若し其の事件が長引いて續いた擧句落着した時には at length と云ふ。

"At last being satisfied they had nothing to fear." (やつと安心したので. もう何も心配するものがなくなつた。)

"A neighbouring king had made war upon this female republic several years with various successes, and at length overthrew them in a great battle." (隣國の王樣は數年間此の女共和國に戰爭をしかけて色んな成功を收めてゐたが, とうとう或る大きな戰ひでこの共和國を亡ぼしてしまつた。)

57. Better than と superior to.

Superior は比較することの出來ない形容詞であり better は good の比較級である。Superior to (……より勝る)を用ふべき處に superior than を用ひるのは誤り

てある。

我は better のみを用ひる事に依つて混亂を避ける事が出來る。

"Smokeless powder is better than ordinary powder for some purpose." (無煙火藥は或る目的の爲には普通の火藥より勝つてゐる。)

58. To consist of, to consist in, to compose of.

一物を構成する爲に結合せる各部分を言ひ表はさんとする時は of を用ふ。例へば. "Macaulay's Micellanies consist chiefly of articles which were first published in the England Review." (マコーレイの雜集は主に初めて英國で出版された論文から成つてゐる。)の如きである。若し我々が事物の眞性,目的,結果を表はさんとする時には in を用ひる。例. "Our safety consists in a strict adherence to duty." (我々の安全は義務に嚴格に服從する事に在る。)

To consist of と to be composed of は同じ意味を表はす。而しながら, 能動詞 (active verb) の consist は agency の觀念が思慮に入れられない時に多く用ひられる。例へば, "The country consists almost altogether of mountains and valleys." (其の國は殆んど山と谷ばかりで出來てある。) の如きである。To be composed of は個々のものを云ひ表はす場合には滅多に用ひられない。例. "Each division consists approximately of an equal number from each class." (各部は各階級より選

ばれた殆んど等數の人員より成つてゐる。)

我々は is consisted 或は composes of と云ふが如き誤をしてはならぬ。

"No language was ever composed of such numerous and such diverse elements as modern English." (現代英語程澤山の變化多き要素を持つてゐる言語は古來無かつた。)

次の例に示す如き誤りをしてはならぬ。

例. "Air is composed by (of を用ふべし) nitrogen, oxygen, and argon." (空氣は窒素,酸素,アルゴンより成る。)

"The island consists with hills and there is hardly any level ground suitable for race fields." (この島は丘から出來てゐて競爭場に適するやうな平坦な土地は殆んどない。)

59. To be like と to resemble.

Like は形容詞であり resemble は動詞である。而し resemble は屢形容詞の如く誤用せらる。例へば "It is very resemble." (大層良く似てゐる) の如きである。此は誤りである。宜しく. "It is very like." 或は "It much resemble." と改めねばならない。

60. To like と to be fond of.

動詞の like は必ず其の後に infinitive noun, 或は participle noun を伴ふ。

形容詞 fond はその後には決して to のある infinitive

を伴はないで gerund を伴ふ。fond は不完全自動詞 to be に先き立たれ. of を伴ふ。例. "I like to see him now." (私は今彼に會ひ度い。) "I like Tokyo best." (私は東京が一番好きだ。) "I like reading." (私は讀書が好きです。) "I am very fond of amusing myself in the field and wood." (私は野原や森で遊ぶのが大層好きです。)

"I am very like music." (私は音樂が大變好きです) と云つてはならぬ。此の場合は "I am very fond of music." 或は "I like music very much." と云はねばならぬ。

61. Many of the, some of the, all of the, four of the を使はねばならぬ所へ. many of, some of, all of, four を用ひてはならない。例. "All of the ships from the East are detained at the quarantine station." (東洋から來た總ての船舶は檢疫船繫留所に引き留められた。) "Yesterday on three of the ships several passengers were found to have colera." (昨日三艘の船で, 數人の乘客がコレラに罹つてゐる事を發見された。)

62. Generally と in general.

Generally には二つの異なれる意味がある。それは往々にして曖昧を引き起す事がある。一つの意味は for the most part 或は in the majority of instances と云ふ意味である。例へば "The plan generally succeeded." (この計畫は大抵の場合に成功した。)の如きである。

今一つの意味は. "A general or generalized fact or attribute." (一般的或は通俗化されたる事實或は屬性。) 又は "Something common to a whole class." (一階級全部に共通なるもの。) と云ふ意味である。例. "Animals generally have a nervous system." (動物は一般に神經組織を持つてゐる。) "It is a general property of animals." (それは動物の共通の本質である。) 前者は最も普通な意味であり. 後者の場合は in general と云ふ phrase を以て云ひ表はす方が良い。

62. To see a person off. (見送る。送る) と云ふ場合に. to send a person の如き形を用ひてはならぬ。

友人が遠方に行く時に, 我々は停車場或は波止場で, 彼を see off する。友人が我々を訪れて來て呉れた時には. 我々は彼を戸口まで或は彼の家まで彼を accompany(送る) する。此の場合に "We saw him to the gate or his home." (私共はあの人を戸口まで或は家まで送りました。) と云つても宜しい。

63. To be owing to と to be due to.

形容詞の due は, 動詞の如くに誤用される事がある。例. "The defeat of Napoleon was partly due (dued ではない) to his lack of power on the sea." (ナポレオンの敗北は彼の海軍力の缺如に依る。)

動詞 to owe は形容詞 owing を使ふべき處に誤用せらる。例. "His sickness owes to drinking bad water." (彼の病氣の原因は惡い水を飲んだからだ。)

Owes to は is owing to 或は is due to に改めねばならない。

"Mistakes are due to various causes but a great many are owing to carelessness." (誤りは色んな原因に依るが. 多くは不注意に依る。)

練習問題 III.

A.

以下の諸文に不適當なる語あらば，適當なるものに改めよ。

1. I am very like to row. (私は漕ぐのが一層好きだ。)
2. This book is resembles to that. (この本はあの本に似てゐる。)
3. After a day's travel he returned to home. (一日の旅行を終へて彼は家に歸つた。)
4. Organ is necessary tool in Kindergerten. (オルガンは幼稚園に必要な道具です。)
5. Please, teach me the road to Nihonbashi." (日本橋へ行く道を教へて下さい。)
6. He does not care of his teacher's instruction. (彼は先生の言ひ付けを何とも思はぬ。)
7. Yesterday I was a disease, and I could not go to school. (昨日私は病氣で學校に行く事が出來ませんでした。)
8. They have gone to Shinbashi Station to send Mr.

Buto who is to go to Hiroshima. (彼等は廣島へ行く武藤氏を見送りに新橋の停車場へ行つた。)

9. Having been excited by the event, I tried a speech before them. (私はこの事で激昂したので彼等の前で演說をしました。)
10. When the cherry-trees are in blossom, many people go to play at Mukojima. (櫻の花の咲く時には澤山の人が向島へ遊びに行きます。)
11. The Chinyen which we caught from China in the last war is the largest ship we have at present. (この間の戰爭で支那から分捕つた鎮遠は現在我國で一番大きな船です。)
12. As the season is able for out-door plays, many parties of students try a holiday ramble into the country. (時節は丁度戶外遊戲に適してゐるので. 幾組の學生が休日には田舍へ旅行に行きます。)

B.

以下の邦文を英譯せよ。

1. あの人は肺病で死にました
2. 私共の雞は隔日* に卵を生みます
3. 此の品は他の品より優つております。
4. 私は鳥のやうに自由自在に飛び廻り度い。
5. 去年の夏季休業* には長崎へ旅行致しました。
6. 今晩は暗*みだから御宅まで送つて上げませう。
7. 我邦は本島，九州，四國，北海道，臺灣の五大島及

び他の小島嶼より成る。

8. 此の算術の問題は余程面白いからやつて御覽なさい。

9. 秀吉は貧しき家に生れたから子供の時分より他人に使はれました。

(2) 隔日…. Every other day　(5) 夏季休業…. Summer vacation　(6) 暗み…. Dark

第　三　篇

文章法 (Syntax) の誤り。

1. Head, pair, sail, dozen, の如き名詞は，數形容詞 (numeral adjective) と共に用ひられる時は複數の形をとらない。例. "three head of cattle" (三頭の牛). "five pair of horses(五雙の馬). "ten dozen stockings"(十打の靴下). "three sail of the line" (三雙の戰別船)。

2. hundred, thousand, million の如き名詞は數詞と共に用ひる時は複數形を取らない。我は three huudred (三百). five thousand(五千). three million(三百萬) と云ふ。而し many を使ふ時は many hundreds, many thousands と云はなければならぬ。例. "In the spring the park is crowded with thousands of visitors." (春になると此の公園には何千と云ふ人が來る。)

"The steamer was a small one of three hundred tons burden." (此の汽船は參百噸積の小さな船だ。)

3. "one" を用ふべき所に簡單なる人稱代名詞

(simple personal pronoun). 例へば him, her, it の如きを用ひてはならぬ。代名詞 one は. 不定冠詞 a 又は an に依つて限定されて不定となつてゐる名詞を代表するものである。例へば. "Did you meet a man on your way here? Yes, I met one. No, I did not meet any one." (此處へ來る途中誰かにお會ひになりましたか。はい. 會ひました。いいえ. 會ひませんでした。」の文に見るが如きである。この場合には絶對に him を用ひてはならない。

例. "Have you ever seen a photograph?" (貴君は寫眞と云ふものを見た事がありますか。)

"Yes, I have seen one. No, I have never seen one." (はい. 見た事があります。いえ. 見た事は御座いません。)

"Have you a knife?" (ナイフを御持ちですか)

"Yes, I have one. (it ではない)" (はい. 持つてゐます。)

然し若しも. その名詞が the に依つて限定されないならは. Simple personal pronoun はその名詞を代表する。

例. "Did you meet the policeman?" (貴君はあの巡査に合ひしたか。)

"Yes, I met him at the gate." (はい戸口で會ひました。)

"Is that a Russian flag flying on that ship?" (あの

船に飜つてゐるのは露西亞の旗ですか）の如き問ひに對しては．又別な方法を以て答へる．此の如き問ひに對して "Yes, it is one." と答へるのは意味が曖昧である。宜しく．"Yes, it is a Russian flag." （はい．それは露西亞の旗です。）或は "No, it is a French flag." （いいえ．それは佛蘭西の旗です。）と答へなければならぬ。

或る質問に答へる場合．其の答が分からなかつた時に "I can not answer it." と云はれる事を良く耳にするが．これは誤りである。この文章の it は何等先行詞 (antecedent pronoun) を有せざる故何を指すか分からない。此の時は．必ず．"I can not answer your question." 或は "I can not answer." と云はなければならぬ。

冠詞 a, an 及び the の用法。

日本學生にとつては．冠詞の用法に熟達する事は最も重要である。何となれば彼等の誤りの大部分は冠詞の省略或は誤用に存するからである。

4. 不定冠詞(indefinite article) の a 及び an は單數名詞のみに使用せられ．一個の物を指す。而もそれは特定のものではない。a horse(馬); a table(テーブル); an ant(蟻) の如きである。

A は子音．有聲の "h", "y" 或は "w" の前に使用せらる。例．"a boy" (少年), "a house" (家); "a year" (年); "a world" (世界)。

An は母音又は無聲の "h" の前に使用せらる。例へば "an ounce" (一オンス); "an hour" (一時間)の如きである。

Macaulay の如き名文家は．accent が第二節 (second syllable) にある時は有聲 "h" の前にも an を用ひてゐる。例へば "an historical parallel" (歴史的平行)の如きである。

母音で以つて始まつて居る語でもそれが子音 "y" の如くに發音される言葉がある。例へば ewe (牝羊), eulogy(頌辯), European (歐羅巴の), useful (有用なる) などの如きである。かゝる言葉には an を用ひる人もあるが．一般には a を用ひる。其の方が良いやうに思はれる。例．"a ewe"(牝羊), "a European difficulty" (歐洲紛議), "a useful contrivance" (有用な工夫)。

定冠詞 (definite article) の the は單數複數の兩方に用ひられる。そして一般に．特殊の物を云ひ表はすに用ひられる。例．the horse(馬); the horses(馬).

今冠詞の用法の規則を擧げる前に名詞を分類する必要があると思ふ。何となれば名詞を限定する冠詞の用法はその名詞の屬する階級に依るからである。

名詞は次の五つの部に分ける事が出來る。

1. 固有名詞 (Proper noun)

例．Formosa (臺灣), Tokyo (東京).

2. 普通名詞 (Common noun)

例．city(都會), river(川), star(星), king(王).

3. 集合名詞(Collective noun)

例. Nation (國民), regiment (聯隊), fleet (艦隊), senate(元老院).

4. 物質名詞(Material noun)

例. iron(鐵), clay(粘土), wheat(小麥), water (水), snow(雲).

5. 抽象名詞(Abstruct noun)

例. length(長さ), roundness(圓さ), whiteness (白さ), regularity(規則正しき事), bravery (勇氣), wisdom(智慮), の如し。

因有名詞, 物質名詞, 抽象名詞の三つは普通名詞に轉用せらる事あるに注意せよ。

(1) 固有名詞は一階級中の一個を云ひ表はす時には. 普通名詞となる。例. a Mr. Brown (ブラウンさんと云ふ人)。

(2) 固有名詞は. 同性質の一階級のもの。例へば Original な人, 場所, 物などを云ひあらはす時には普通名詞となる。例へば a Napoleon (ナポレオンの如き人(英雄)); a Milton (ミルトンの如き人(詩人)); a Shakespeare (セクスピヤの如き人(劇作者)); a Paris (巴里の樣な所(美しい所))。などの如し。

物質名詞は次の三つの場合に普通名詞となる。

(1) 物質の名前が. それに依つて作られたものを指す時。例へば tins と云へば tin(錫)で作られた道具を意味し. papers と云へば paper に依つて作られ報知を

與へるものを意味するのである。

(2) 集合體の全部を云ひあらはさないで. 分離せるその一部分を云ひあらはす時。例. stones(石), states (石版), clouds(雲), lights(燈)。

(3) 物質が劃然たる種類に分かれてゐる時。例. wines(酒), teas(茶), sugars(砂糖), salts(鹽), earth(土地), waters(河, 湖水)。これは物質名詞が複數形に使はれる最も普通な場合である。抽象名詞は特殊な物を指す場合には普通名詞に轉用される。例へば a friendship, friendships(友情) は friendship の特殊の關係を意味す。又 colours of rainbow(虹の色) の如きに於ては colours は色々な種類を意味してゐる。又 I drink all your health. (貴君の健康のために一杯やります) の如きそれである。

不定冠詞 a 又は an の用法。

5. 固有名詞, 抽象名詞及び物質名詞の三つを除いては. 總ての單數名詞には. 不定冠詞か或は其れに相當する語を附けなければならぬ。例へば a king(王); a soldier(兵士), a Washington(卽 a patriot. ワシントンのやうな愛國者), a friendship(友情), a copper(銅器), an army(軍隊), a fleet(艦隊) などの如し。

冠詞に相當する語(Equivalent words)とは, 所有代名詞(possessive pronoun) 卽ち his, her, its, my, our, your, their 等や. 代名形容詞 例へば any, each, every, either, neither, no one, such, this, that what, which,

whichever などを云ふ。

"Any person can do it." (誰でも出來る。)

"Simeon and Levi took each man his sword." (シメオンとレヴィは各人から刀を取つた。)

"Truth may be on both sides, on either side, or on neither side." (眞理は兩面に存する事もあり. 片面にのみ存する事もあり. いづれの面にも存せざることあり。)

"England expect every man to do his duty." (英國は各自が其の本分を盡さん事を期待す。)

"My friend Mr. Ichikawa called upon me last night." (友人の市河君が昨夜僕の所へ訪れて來ました。)

6. 名詞が形容詞に依つて限定される時に冠詞を省略するのは Common mistake である。"It is very fine day." (今日は大層天氣が良い。) は誤である。この際は必ず "It is a very fine day." と云はなければならぬ。"It is a very fine." と云ふ場合には a を必要としない。何となれば此の文には, noun が無いからである。

7. Time, weight, measure (量) を表はす語の前には a 又は an を用ひる。此の場合不定冠詞は each の意味を有す。

例. "He received £ 10000 a year." (彼は年に一萬磅を貰ふ。)

"I paid him two yen a pound." (私は一磅について二圓宛彼に拂つた。)

"I paid him ten sen a grass." (一杯に十錢づつ拂つた。)

8. Hundred, thousand, million の前には不定冠詞を用ひる。

例へば a hundred (百); a thousand (千); a million (百萬) など。

9. 固有名詞が初めて述べられ, 相手がその名前の外それに就いて何も知らない場合には, 固有名詞に不定冠詞を用ひる。

此の場合に不定冠詞の代りに代名形容詞 one が用ひられる事がある。

例. "They broke in upon a Mr. Kaneda, a rich man in this town." (彼等はこの町の富豪である金田と云ふ人の所へ亂入した。)

"There was another printer in town, lately set up, one Komai who perhaps might employ me." (此の町には最近に店を開いた. 駒井と云ふ活版屋がもう一軒ある。その人は多分私を傭つて呉れるでせう。)

*10. Fool (馬鹿), idiot (白痴), duck (可愛い人, 可愛いもの), goose (馬鹿者, 阿房), darling (可愛い人) などが先き立つ場合には固有名詞に不定冠詞を附ける。

例. "That idiot of a John does not come here."

（ジョンの馬鹿野郎は此處へ來ない。）

"Your darling of a Mary! Come here"（まあほんとに可愛いメリーや．此方へおいで。）

11. 强勢(emphasis) の目的を以て．同一事物或は人を限定する二個又はそれを以上の形容詞に一つ一つ不定冠詞を繰返す事がある。

例. "He returned a sadder and a wiser man."（彼は昔よりも沈んだ考へ深い人となつて歸つて來た。）

12. 實際の意味が單數である時は．複放名詞に不定冠詞を附けてもよい。

例. "We passed an agreeable three days here."（我々は此處で愉快な三日を過した。）

13. What sort of（どんな風の），what kind of（何んな種類の）の如き形に依つて先立たれた名詞には不定冠詞を省略する。

例. "What sort of boy is Master Taro?"（太郎君はどんな少年ですか。）

"What kind of bird is it?"（何種の鳥ですか。）

14. 不定冠詞は强勢(emphasis) 或は簡潔(brevity)の目的を以つて省略される事がある。

例. "What a diffence there is between man and man, in temper and disposition, and inttellect?"（人は，夫夫，氣性，性向及び理智の上に於て何と大きな相違を持つてゐるだらう。）

15. 普通名詞が最も廣い意味に使はれる時には．不定冠詞は省略される。

例. "Man is mortal."卽ち"all men are mortal"（總ての人は死す。）

"Man is creature of ambition and interest."（人は野心と利益の動物である。）

定冠詞 The の用法。

16. 特定のものを指す場合には普通名詞の前に定冠詞を用ひる。

例. "The Tokyo of to-day is very different from the Tokyo of thirty years ago."（今日の東京は三十年昔の東京とは大變ちがつてゐる。）

"The health of the Prince improves daily and his strength increases."（あの公爵の健康は日に日に進み，力も增えて來る。）

"The attraction varies inversely as the square of the distance."（引力は距離の自乘に反比例する。）

"The supply of water has been increased, but the water is not so good as formerly."（水の供給は增えたが，その水は以前の程良くはなかつた。）

"One day a student called upon me and he talked with me about Formosa. The student had been in that province, and ....."（或日一人の學生が私を訪問して私と臺灣の事に就いて話しました。あの學生は臺灣にゐた事があつたのです。そ

して……。)

17. 或る階級中にたゞ一つの物しかない時には普通名詞にも the を附ける。例. the world(世界); the sun(太陽); the moon(月); the sky(星); the air(空氣); the ocean(太洋); the sea(海). 空

18. 定冠詞は上と同じ理由の下に，二三の複數名詞にも用ひられる。例. the stars(星); the mountains(山縣); the fields(田畑); the clouds(雲); the Koreans(朝鮮人); the Russians(露西亞人); the Germans(獨逸人); the Turks(土耳古人); the Mongols(蒙古人).

斯くの如く定冠詞が複數名詞に用ひられた場合は the は all と云ふ意味である。例へば "The stars" は "all stars" と云ふ意味である。

19. 最上級の形容詞，序詞(first; second の如き) 及び next 及び last に依つて限定されたる名詞には定冠詞を用ひる。何となれば此等の形容冠詞は，その階級を一つに限定するからである。例. the most powerful explosive"(最も强烈な爆發藥);"the greatest wisdom"(最も賢い智慧); "the happiest day" (最も幸福な日); "the most effective weapon" (最も有効な武器); "the highest degree of civilization(文明の最高程度). "The first day of the year." (正月元旦). "the thirtieth of the next month(來月の三十日)。

例外. 時を云ふ時には. the は屢々 next と last の前には省略される事がある。例. "next month" (來月);

"last year"(昨年); "last night"(昨夜). 而しながら day の場合には "~~the next day~~"(翌日) と云ふ。

我々は. a ~~loftiest~~ mountain (高い山), a most honest man(正直な人) と云ふ事も出來る事に注意せよ。

20. 我々は Qualifying Adjective を普通名詞或は抽象名詞に變へる爲に Qualifying Adjective に the を用ひる。

形容詞の觀念が複數である場合は. 普通名詞となり. 單數の場合は抽象名詞となる。

例. "The rich are not always the good." (富人必ずしも善人たらず。)

"The evil that men do lives after him.
The good is oft interred with their bones."
(人の行ひし惡は死後にまで殘り.
善は屢々骨と共に埋めらる。)

21. 定冠詞は又單數の普通名詞に附いてその階級全部を代表する。

例. "The dog is a faithful animal." (犬は忠實な動物だ。)

"The tiger is braver than the lion." (虎は獅子よりも勇敢だ。)

名詞 man は上述の如く全階級をあらはすに the を用ひない。

"The proper study of mankind is man."
(人類の適當な研究は人間である。卽ち人間に

は人間の研究が積の山）

22. Morning, evening, afternoon 及び night の如く時間を表はす言葉には the を用ひる。"in the morning"（午前に），"in the night"（午後に），"during the morning"（午前中），"all the night"（夜中）. "all the morning"（朝中），on the morning of the 10th（十日の朝に）。

而しこれ以外の場合には the を用ひない。

例. "Morning is a better time for study than night because the mind is then fresher."（朝は夜よりも勉強に良い時だ．何となれば氣持ちがすがすがしいから。）

"He was often disturbed in the night, so in the morning（午前中の或る時を指す）be lay down and slept until evening."（彼は夜は屢々眠をさまたげられるので朝は寢てゐて夕方まで眠る。）

23. Spring（春），Summer（夏）の如き季節の場合にも色々な用法がある。而し"all the winter"の如き形を除いては一般に．season には the を付けない。而しながら"in the winter"の如き形も屢々用ひられる。

例. "While the earth remaineth, summer and winter, and day and night shall not cease."（土地のある限り，夏，冬，晝，夜，は絶えないであらう。）

24. Rivers（河），seas（海），tracts of country（土地），collection of islands（群島），ranges of mountains（山脈），及び ships（船）の名前には定冠詞を付ける。

north south east east

例. The Sumida（隅田川），the Mediterranean（地中海），the Hokkaido（北海道），the Alps（アルプス山脈），the Nagato（長門艦），the West Indies（西印度諸島）.

Cape（灣），Lake（湖），Mount（山）の如き語の後に固有名詞の來る時には the を省略することに注意せよ。

例. Cape Horn（ホーン岬）; Lake Ontario（オンタリオ湖）; Mount Fuji（富士山）.

山がたゞ一つであつて山脈になつてゐない場合には定冠詞は用ひない。例. Fuji（富士山）.

25. north（北），south（南），east（東），west（西），right（右），left（左）の如き言葉には the を用ひる。

例. "On the left was my study room; on the right the dining room."（左側には私の書齋があり，右側には食堂がある。）

かくの如き the は詩に於ては屢省略されることに注意せよ。

例. "Cannon to right of them, cannon to left of them."（右にも砲，左にも砲。）

"To be situated in the northern part of the city."（市の北部に位す）と云へば，これは inside the city（市の中）の意味であり。"To be situated north of the city."（市の北部に位す）と云へば，"outside the city."（市の外）の意味である。前者は屢々後者の代りに使はれることある故，注意せねばならぬ。

例. "Ueno is in the northern part cf Tokyo."
(上野は東京の北部にある。)
"Shinagawa is a short distancc south of Tokyo."
(品川は，東京の南方近距離の所にある。)

26. Public buildings (公共建物), institutions (公共建築物), Councils(會議) などには the を用ひる。
The Daiichikotogakko (第一高等學校); Koyokan (紅葉館); The Areopagus(アレオパカズの會議)。

27. 形容詞に從つて云ひ表はされた性質を强める爲に，性質形容詞に依つて限定されたる固有名詞に the を附ける。

例. "The cunning Henry got into scrapes."
(ずるい Henry は困つた事を仕出來した。)
"The little Frank was a good boy."
(小さな Frank はよい子であつた。)
"The unfortunate Thomas was at a loss."
(不幸なトーマスは當惑してゐた。)

28. 次の場合には定冠詞は省略される。

(a) meals(食事)の名前の前。

例. "I had written three letters before breakfast."
(私は朝飯前に手紙を三本書きました。)
"He was called to supper."
(彼は晩餐に呼ばれた。)
"They had bread and butter."
(彼等はバタ附のパンを食つた。)

(b) Nominative absolute (呼び掛の場合)。

例. "Up! up! young man." (立てよ！立てよ！若人よ！)

(c) 國の名前から出た固有形容詞 (Proper adjective) で，language(言語) を意味する場合。

例. "He speaks English very well." (彼は英語を良く話す。)
"He studied German about three years." (彼は獨逸語を約三年勉强した。)

若し，我々が the English と云ふ時には，それは the English men(英國人) と云ふ意味である。

(d) 技術(arts) 或は科學(sciences) の名前の前。或は單に稱號(title) として用ひられた言葉。

例. "Columbus was well versed in geography and mathematics." (コロンブスは地理と數學に良く通じてゐた。)
"The supreme executive officer in Russia is called Czar." (露西亞の最高の執行官は Czar と呼ばれてゐる。)

(e) Disease(病氣の名前の前。)

例. "He caught cold." (彼は風邪を引いた。)
"He died of consumption, or typhus." (彼は肺病で死んだ。或はチブスで死んだ。)

"He caught the cold." 或は "He was seized by the fever." (彼は熱病に罹つた。) の如き形を用ひてはなら

ぬ。

(f) 擬人化的効果を大ならしむ爲定冠詞と結合せられたる語の前。我々が the society(社會)と云ふべき處を, society と云ふならば, それは society を person と見做したものである。同じ様に, the government を Government と云ふのも擬人化である。亞米利加人のよく云ふ. Community もこれと同じである。

(g) 親戚緣者(relatives) の名前。

例. "Cousin came here to see me last night." (從兄弟が昨夜私に會ひに來た。)

"Father gave me a watch." (御父さんが私に時計を呉れた。)

(h) Correlative Nouns(連關名詞) の前。

例. "Doctor and patient love with each other." (醫者と婁者はお互に仲が良い。)

"Captain and crew are brave." (船長と船員は勇敢だ。)

"Master and servant are good." (主人も下僕も善良てある。)

(i) Mode of transference(移轉の方法) を表はす名詞の前。

例. "The long journey was to be performed on horseback." (長い旅行は馬ですべきだ。)

"Last year I made a trip to Osaka by train (or by steamboat, on foot). (昨日私は汽車で (或は船

で, 徒歩で) 大阪へ旅行しました。

(j) a whole class(階級全部) を表はす爲に用ひた集合名詞の前。例へば cavalry(騎兵), mankind(人類), cattle(家畜), posterity(子孫) などである。

例. "They had many thousands of cavalry." (幾千と云ふ騎兵を持つてゐた。)

"History may be defined as a record of mankind." (歴史は人類の記錄なりと定義する事が出來る。)

"He would have wished posterity to have a likeness of him." (彼はその子孫を自分に似せたいと思つたであらう。)

(k) Parliament(議會) と云ふ集合名詞の場合。

例. "He had won for himself a conspicuous place in Parliament." ....Macaulay. (彼は議會に於て顯著なる地位を勝ち得た。)

(l) 種々の phrase に於て:— to school(學校へ), to town(町へ); to church(教會へ); to market(市場へ); to bed(寢床へ); to sea(海上); to shore(岸へ); at sea(海上で), at school(受業中), at church(教會に居る), at home(在宅して); in bed(就寢中); in school(在學中), above ground(地上), under ground(下界), 等。

29. "The more the better" (多ければ多い程良い): "The sooner the merrier." (早ければ早い程面白い。) などの形をよく記憶しなければならぬ。此等の言ひ方

にあらはれた the は定冠詞ではなく．その意味も定冠詞の意味とは大いに違つてゐる。

例へば "The sooner the merrier." と云ふ意味は．"by what sooner, by that merrier" と云ふ意味である。即ち「早ければ早い程，ますます面白い」と云ふ意味である。

30. 冠詞の位置。

一般に云へば冠詞は形容詞或はそれを modify する語の前に置かるべきものである。例."a wise man"（賢い人）; a few students"（數人の學生）; "a very fine day"（大變天氣の良い日）; "the honest man"（あの正直な人）。

例外. I. such, what, half, many の如き形容詞と共に用ひられる時には冠詞は其等の語の後に來る。例 such a sight"（かくの如き光景），"such a troublesome language（こんな面倒な言葉），"what a beautiful sight"（まあ何と云ふ美しい景色），"I have half a mind go there."（私は半分は其處へ行き度い。）"many a flower.'（澤山の花）. "many a ship."（澤山の船）。

例外. II. too, so, as, how, 及び however の如き副詞に依つて限定されたる形容詞と共に用ふる時には．冠詞は形容詞の後に來る。例. "So brave a deed deserves praise."（かくも勇敢なる行爲は賞讃に値ひす）; "As large a ship as any in the navy."（海軍中どの船よりも一番大きな船。）"How pleasant a day it was!"（何と云ふ面白い日だつたらう。）"How-

ever thick the armour it would be penetrated by such a shot."（如何に其の鎧が厚いからとて，そんな彈丸なら突き貫けるだらう。）

例外. III. all 及び both の後には定冠詞を用ひる。

例. "All the ammunition was used and the whole army was put to flight."（彈藥を使ひ果して全軍逃走せり。）

"Both the students are deligent in their lessons."（二人の學生はどちらも課業に熱心だ。）

練習問題 IX.

A.

次の文中に省略されたる冠詞あらばそれを補ひ且つその理由を擧げよ。

1. He is very diligent scholar.（彼は大變熱心な學者だ。）
2. How pleasant day it must have been!（きつと愉快な日に相違なかつたらう。）
3. Mukojima is on left bank of Sumidagawa.（向島は隅田川の左岸にあり。）
4. More rays of heat are slanted weaker do they become.（熱線は傾けば傾く程弱くなる。）
5. Marshal Macdonald's crossing Alps is one of bravest exploits in history of Napoleon's generals.（マクドナルド元帥の，アルプ山越えは，ナポレオンの將軍の歴史中最も勇敢なる功績の一つである。

6. Rich will be ready to contribute, and young to take field. (富者は喜んで金を寄附し. 青年は喜んで出陣するだらう。)

7. English flag-ship Centurion passed through Bakan straits on mornning of 25th instant. Japan cruiser Yoshino, which was lying at anchor in harbour, saluted her, and salute was returned. (英國旗艦センチュリオン號は本月廿五日午前. 馬關海峽を通過した。我國巡洋艦は當時碇泊中なりしが. これを迎え. 先方よりは答禮があつた。)

B.

次の文章を訂正せよ。

1. They promised to go by the train. (彼等は汽車で行かうと約束した。)
2. Who is Milton in era of Meiji. (明治時代のミルトンは誰ですか。)
3. So a noble deed deserves a ample reward. (かくも氣高き行爲は充分の賞讃に價する。)
4. Three hundreds heroes rode into jaws of death (三百の英雄が虎穴に飛び込んだ。)
5. Frogs lies in the earth all winter. (蛙は冬中地中にもぐつてゐる。)
6. A half dozen dogs ran after little deer. (六匹の犬が小さな鹿を追つ掛けてゐる。)
7. Taro and Jiro were a very idle, and the both

Thō

boys could not pass the examination. (太郎と次郎は大變怠け者で二人共試驗に及第する事が出來なかつた。)

C.

以下の邦文を英譯せよ。

1. 此の藥は一日に三度づつ御のみなさい。
2. 高く登れば登る程遠く*が見える。
3. 私は陸にあつてはナポレオンとなり, 海にあつてはオルソンたらん。
4. 地球は西より東に太陽の周圍を廻轉す*。
5. モリソン山は富士山より二千尺許り高しと云ふ。
6. 毎年春季には琵琶湖にて盛なる端艇競爭が催されます。
7. あなたは英語を英人より敎へられましたか。又は米人よりですか。

(2) 遠く…… far, (4) 廻轉す…… to revolve.

31. Any と Some.

Any には次の二つの意味がある。一は one out of many.(多くの中の一つ) 或は indefinitely(不定の, 任意の) と云ふ意味である。例へば. "Any knife will do." (ナイフなら何でも宜しい。) の如きである。Any の今一つの意味は. an indefinite number or quantity. (不定の數或は量) である。例へば. "Are there any witnesses presented." (少しは保證人が出席してゐますか) 又は "There is not any water." (一寸も水はありませ

ん）の如きである。

かくの如く any は複數，單數の名詞に使はれる。

Any は疑問文，否定文，條件文に使用せらる。

例. "Has any improvement been made lately in quick-firing guns?" "Yes, some improvement was made last year."（最近速射砲に何か改良がほどこされましたか。はい，去年，少し許り改良がほどこされました。）

"There is not any water in the hold now, but there was some there last night."（城にはもう水がありません。昨夜は少しはありましたが。）

"If there be any ammunition, bring some."（少しでも彈藥があるならもつて來い。）

肯定文に使用されたる any は every の意味である。

例. "Any child knows that."（子供なら誰でもそれを知つてゐる。

Some は composed of a quantity or number which is not stated.（述べられざる量或は數に依つて構成されたる）と云ふ意味である。例."some water"（若干の水）"some food"（若干の食物），"some writers"（數人の著者），"some persons"（數人の人）。

Some は單數の普通名詞に使つてはならぬ。但し，その名詞に依つて指示されたる事物が意志的に指し示されず又明かに知られない時は some を用ひる。我々は a man と云ふべき處を some man と云つてはならぬ。Some は肯定文或は命令文に使用せらる。

疑問文に於ては some は形容詞或は代名詞として使用せられる。その意味は「或る不定の一部」と云ふ意味である。"Would you like some tea?"（御茶がお好きですか）。"Shall I give you some of these?"（少し此れを上げませうか）。

代名詞としての Some 及び any の用法.

Some は. 殘りより區別されたる一定の量，部分，數を意味してゐる。そしてその用法には some 以外のものは some と同じでないと云ふ意味を持つてゐる。

例. "Some passed the entrance examination (but others fails in it)."（或るものは試驗に及第した。而し他の者は落第した。）

Any は他の部分と關係なく單に a certain part(或る部分）と云ふ意味である。

例. "Any of these words may be used."（どの語を使つても宜しい。卽ちこれ等の語の用法は總て同じである。）

"I must have some (though I do not need all) but any of them will do."（私は少し許り貰はなくてはなりません。——皆要るのぢやありませんが——而しどれでも宜しう御座います。）

Some fifty years ago の如き用法のある事を記憶せよ。此の場合の some は about(約）と云ふ意味である。

32. All と all the.

形容詞の all は二つの意味を持つてゐる。即ち，

(a) whole quantity（全量）を表はす。substance（物質），extent（範圍），duration（繼續期間）又は degree（程度）などの全量をあらはす。此の意味に於ける all は一般に單數名詞或は複數形の無い名詞と共に用ひられる。即ち固有名詞，物質名詞，抽象名詞などと共に用ひられるのである。

例. "All nature is but art unknown to thee;
All chance, direction which thou can'st not see;
All discord, harmony—not understood;
All partial evil, universal good." —Pope.—

（自然は悉く御身に知られざる技巧に過ぎず。
そは御身の見る事る得ざる機會であり，命令である。
そは理解し得ざる不調和であり，調和である。
そは偏頗なる惡であり，普遍の善である。）

ポープ

All は集合體の個々の物に對して云ふ場合には the whole number of（全總數）と云ふ意味である。この意味の all は複數形の名詞と共に用ひられる。例へば. "All men think, all men mortal but themselves." （總ての人は自分より外の者は皆死ぬと考へてゐた。）の如きである。

All の後であつて，而かも名詞の前に定冠詞，所有代名詞又は指示名詞を使へば，それはその名詞に依つて

指示されたるその階級の或る特種の物を意味する。されば上例に於ても，all men は every men in the world と云ふ意味であるが，若し all the men とするならば，それは the men of a certain class.（或る階級の全部の人）と云ふ意味である。同じ樣に all his money（彼の持つてゐる總ての金），all these facts（此等の事實の全部）にも夫夫限られたる意味があるのである。

時としては all は漠然と a large portion.（大きな部分），a large number.（澤山の數），又は a great part.（大部分）と云ふ事を意味する事がある。されば "All Judea and all region round about Jordan."（猶太の大部分及びヨルダンの河のほとりの多くの地方.）又は "All men held John as a prophet."（人は大部分ジョンを豫言者なりと考へてゐた。）の文の如きは all を文字通りに解釋しては理解されにくい。而しこの all は大部分と云ふ意味なりとすれば理解する事が出來る。

All は又 人稱代名詞の後に使はれる。例へば "We all went."（我々は悉く行つた）の如きである。又 "He spoke to us all."（彼は私等全部に話し掛けた）なども その例である。Both も亦同じ樣に we, they の後に使用される。"We both went."（我々は二人行つた。）の如きである。

代名詞の all も同じ意味をあらはすに用ひられる。例. "All of us went."（私等は皆行つた），"He spoke to all of us."（彼は私等皆に話しかけた）Both も亦同

じ様に使用する事か出來る。

邦語の「誰でも」を英譯する場合に. Every one 或は any one と飜譯する代りに. all men と云つてはならぬ。"All men say so." は "Every one says so." (誰でもそう云ひます。) に改め "May all men travel without passporta." は "May any one travel without a passport?" (誰でも旅行券なくて旅行出來ますか) に改めねばならぬ。

38. whole と the whole.

形容詞の whole は二つの意味を持つてゐる。即ち,

(1) Entire(完き); Complete(完全なる).

Whole は此の意味に於いて, 意味を確定的ならしめる。即ち "It rained there whole days." (雨が丸三日降りました) と云へば三日間全部降つた事を意味するのである。"One whole division was first sent to the seat of war." (一師團全部が最先きに戰地へ派遣されました。)

(2) All(皆); every part(どの部分も) 即ち總計を作り上ぐべき各部分を意味す。この用法は whole の最も普通なる用法にして, この意味の whole は常に定冠詞, 所有代名詞, 或は 指示代名詞を必要とする。例へば "The whole region was devastated by the flood." (その地方は全部洪水に依つて荒された。) 又は "All the ammunition was used and the whole army was put to flight." (彈藥は悉く使ひ果たされ, 全軍は逃走した。)

Whole は一般に單數名詞に使用せられ, all は複數名詞, 或は物質名詞に使用せらるる事に注意せよ。

All the と云ふべき場合に the all と使つてはならぬ。

34. Little と a little.

Little は形容詞, 副詞或は名詞として使用せらる。形容詞としては形, 期間, 範圍などの小さい事を意味す。その用法は規則正しく何等難しい所は無い。

副詞或は名詞(時としては形容詞)として使用された場合には little 或は a little に依つて意味が異なる。

副詞としての little は slightly(僅か, 微か) 又は not much(多からず) と云ふ意味である。されば 我々が病人の事を云ふ場合に. "He is little better." (一寸も良くありません。) 或は "He improves little." (彼は一寸もよくなりません) と云へば, その病人は殆んど快方に向く事なく, よしんば向いても, その變化は極めて微細なる事を意味するのである。

A little は somewhat (少しく. 些と.) 或は in some degree(少し許り) と云ふ意味である。されば上例の如き場合にも "He is a little better." (少しは良い) 或は "He improves a little" (少しは良くなります) と云へば, 病人は少し宛なりとも快方に向きつつある事を意味するのである。副詞を限定する場合には, little は殆んど用ひられない。而しながら a little は屢用ひられてゐる。例へば. "He improves a little more slowly than the doctor expected." (彼は醫者の豫期した以上に

ゆるゆるとよくなつて來る）などの如きである。名詞として使用されたる時にも. little と a little には上に述べたと同じやうな相違がある。

"He need little（卽ち，彼は澤山求めない。）and as his friend give him a little（卽ち something, a small amount) he has enough."

Few 及び a few は little 及び a little と同じやうに又同じやうな意味の相違を以つて，複數名詞と共に使用せられる。

35. 特種の形容詞にのみ用ひられる a little.

Little 及び a little は比較級の形容詞には隨意に用ひられるが，原級の形容詞に於てはその用法が制限されてゐる。卽ち，或る形容詞の原級は a little と共に用ひられない。a little は. 或る望ましからざる性質(undesirable quality)をあらはす形容詞のみの原級に使用される。例へば次に示すか如き普通の形容詞の原級には用ひられるが，その反對を表はす語，卽ち括弧の中にある語はその原級の形に於て a little と共に用ひられない。angry(怒つて); anxious(心配せる); cruel(殘酷な); (kind)（親切な); ungrateful（恩知らずな); impatient（忍耐のない);sick(病める);(well)(丈夫な):irresponsible（無責任な）などの如きである。

なほ此の外 un, in, im, ir の如き否定の接頭語の付いた形容詞には一般に用ひられない。

されば. 若し我々が買はんとする物品の値段を云ふ

場合に. "The price is a little high." (この値段は少し高い。）と云ふことは出來るが，若しその物品の値段が安い時に，決して. "The price is a little low." (この値段は少し安い。）などと云つてはならぬ。A little が形容詞或は副詞の比較級を限定する場合には，その用法には上述の如き制限は無い。例. "If it were a little cheaper, I would buy it." （も少し安ければ，それを買ふのだに。）"If the examination had been a little easier I could have passed it." (若しあの試驗がも少し容易かつたら，私は及第する事が出來たらうに。)

望ましき性質を表はす形容詞と共に用ひらるべき a little は，somewhat (些と，多少); rather(幾分か) 或は tolerably(可なり）などの語を以て代用しなければならぬ。

されば上例に於ては. "The price is rather low." (この値段は幾分か安い。） 或は "The article tolerably cheap." (この品物の値段は可成り安い。）と云はねばならぬ。

A little skilful; a little cheap, a little well などと云ふのは誤りであるから注意せねばならぬ。

39. 異なれる二物の比較。

我々は本質的に異なれる二個の物を比較することは出來ぬ。例へば我々は大きさ(size)と船(ship)とを比較する事は出來ないのである。我々は一つの船の大きさと他の船の大きさとは比較する事が出來るし. 又. 大き

さに關して二艘の船を比較する事は出來る。

されば "The size of the Matsushima is the same as the Hashidate." と云ふ事は出來ぬ。この場合は是非共 "The size of the Matsushima is the same as that of the Hashidate." (松島艦の大ぎさは箱館艦の大きさと同じである。) 又は "The Matsushima is the same size as the Hashidate." (松島艦は橋館艦と同じ大きさである。) と云はねばならぬ。

That of と云ふ語を省略して. 二個の異なれる物を比較するのは, 我國學生の陷り易き共通の誤りの一つである。

37. 俗語に於ては, 一日の分類は, 地方に依つてそれぞれ異なつてゐる。

一般に次の如き分類が行はれてゐる。日の出から正午までを morning (朝) と云ひ. 正午から日沒までを afternoon(午後)と云ひ. 日沒から就床時刻までを evening(夕方)と呼び, 殘りを night(夜)と云ふ。時刻を云ふ場合に眞夜中から正午までを.— o'clock in the morning(午前何時)と呼び. 正午から日沒迄を. — o'clock in the afternoon(午後何時) と云ひ. 暗くなつてから眞夜中迄を — o'clock at night(夜の何時)と呼ぶ。この場合は決して. in the night とは云はない。

38. 幾多の形容詞が一つの名詞を形容する時. 其の形容詞の順序。

(a) 數量を表はす形容詞が最先きに來る。例. "forty

three excellent coloured pictures." (四十三枚の美しい着色畫); "a few small, yellow roses." (二三の小さな黃色い薔薇), "many interesting new books." (澤山の面白い新刊書籍)。

(b) 第二には叙べられたる人又は物に對する意見を表はす形容詞が來る。例. "a useful little book." (有益な小さい本), "a pretty little child (綺麗な子供), "a smart little vessel." (輕捷な小船)。

(c) その次には. "size(大きさ), age(年齡), shape(形狀) を表はす形容詞が大抵この順序に來る。而して是等の形容詞の後に種々の性質描寫の形容詞が來るのである。例. "a large old wooden merchant ship." (大きな古い木造の商船), "a little old woman."(小さな老女), "long slender finger." (長いしなやかな指), "a disagreeable raining day." (いやな雨ふり), "a large fertile island." (廣い豐饒な島), "an old torn coat." (古い破れた上衣), "a long cold winter." (長い冷い冬), "a tall strong man." (丈の高い强い男)。

(d) 名詞に一番近い所には, 材料に關する形容詞が置かれ, 其の前には色の形容詞が置かれる。或は材料の形容詞の使用されぬ時は, 色の形容詞が名詞の近くに來る。例. "a shabby little black leather bag." (みすぼらしい小さい革のふくろ), "a coat of some thick black material." (厚い黑い材料で作つた上衣), "a handsome, new, white wooden cottage." (美しい新しい小さな木造

りの小屋), "a well-formed, spirited young iron-grey horse. (しつかりした元氣のある若い鐵褐色の馬)。

39. 動詞 to be と共に用ひられたる形容詞は受動動詞の如き趣があり. 往々にして動詞の如く使用せらるる事がある。例. "He is angry." (彼は怒つてゐる。—形容詞); "He is hurt." (彼は負傷をした—受動動詞)。

"He did not angry." "He will not angry." と云つてはならぬ。此の場合は "He was not angry." 又は "He will not be angry." と云はねばならぬ。

上例の單純なる expression が副詞に依つて限定される時には, その形は大分異つて來る。何となれば異なれる副詞が使用されるからである。

形容詞は. rather, very, exceedingly などの副詞に依つて, 限定される。

動詞は much, very much 及びそれに相等する副詞に依つて限定される。

"He was very much glad."(彼は大層喜んだ), 或は "He was very much hurt." (彼は大怪我をした) の如き形を使つてはならぬ。此等の場合は. much は exceedingly に變へ. very は much に改めねばならぬ。

Often(屢); seldom(滅多に……しない。) の如きその他の副詞は形容詞, 動詞と, 共に用ひられる。

程度を表はす順序は大體の次の樣に云ひ表はすことが出來る。

not very angry.(そんなに怒つてゐない)。rather

angry.(可成り怒つてゐる。) very angry.(大層怒つてゐる); exceedingly angry. (火の出るやうに怒つてゐる。)

not much injured. (大した怪我では無い。) much injured.「大怪我をした。) very much injured.(大變大きな怪我をした。)

40. 文章中の限定副詞の位置は, 動詞の種類卽ち, 他動詞, 自動詞, 受動詞に依つて異つてゐる。

(a) I like him very much. (私は彼が大層好きだ。)
(1) 他動詞 (transitive verb), (2) 目的 (object), (3) 副詞 (adverb).

(b) I very much wish to see him.(私は大變彼に會ひ度い。)「1」副詞, (2) 自動詞(intransitive verb)

(c) I was very much surprised to see him.(私は彼に會つて大層驚いた。」 (1) 助動詞 (auxiliary verb), (2) 副詞, (3) 本動詞(principal verb).

動詞 to be と共に用ひられたる形容詞は, 受動詞と同じ方法を以つて副詞に依つて限定される。

"He was very sick with dysentery." (あの人は赤痢で大變煩らつてゐた。) (1) 助動詞, (2) 副詞, (3) 形容詞。

動詞ニハアラズヤ?

"I like very much rowing." (私は漕ぐ事が大層好きだ。) と云つてはならぬ。この場合は "I like rowing very much." と云はねばならぬ。

41. 助動詞としての do 及び did の用法。

Do 及び Did は問ひを發する時に用ひられる。但し主語が who, which, what の如き疑問代名詞で始まり，又主語が how many, how much, how large の如き形容詞的の語，又は which, what の如き代名容詞に依つて modify されてゐる時には. do, did を用ひない。

例. "Do you go there every day?" (貴君は毎日其處へ行きますか。)

"Where did you see him?" (貴君は何處で彼に會ひましたか。)

"Do you take a walk every day?" (貴君は毎日散歩しますか。)

"Did you take a walk the day before yesterday?" (貴君は一昨日散歩しましたか。)

"Who won the race?" (誰が競走に勝ちましたか。)

"What made the child cry?" (何うして子供は泣きましたか。)

"Which costs more, gunpowder and guncotton?" (火藥と綿火藥とどちらが金が掛かりますか。)

"How much rain fell in the night?" (夜中どの位雨が降りましたか。)

"Which ship sank first?" (どの船が一番先きに沈みましたか。)

"What kind of timber lasts best under water?" (どの種の材木が水に浸けて一番長く持ちますか。)

(b) 肯定文に於ては do 及び did は本動詞を强める爲に用ひられる。

例. "He did write."(彼はたしかに書いた。) "Perdition catch my soul but I do love thee." (破滅が私の靈魂を捕へた. 而かし私はあくまで汝を愛する。)

(c) Do 及び did は副詞 not と共に用ひられて，能動詞の現在或は過去の否定の意味を强める。但し，Do 及び did は强勢の目的以外の場合には. 決して never と共に用ひられぬ。

例. "I do not read it." (私は讀まぬ。) "I do not like it." (私は好かぬ。) "The enemy's fire did not damage the deck at all." (敵の砲火は少しも甲板に害を與へなかつた。) "I never saw him before." (私は未だ彼に會つた事はありません。) "Never did I witness a more striking appearance." (私はあれ以上眼立つた身裝を目擊したことは一度もなかつた。)

(d) Do 及び did は. 特有の形を持つてゐる。それは. be 以外の動詞の代用となる事が出來る。例へば. "He speaks as well as you do (speak の代用) (彼は貴君と同じ位話す) 又は "He loves not plays, as thou dost." (彼は御前程遊びが好きでは無い。)

42. 疑問文を作る爲に，助動詞が使用される場合に，語の排列の順序を變へねばならぬ。卽ち助動詞と本動詞の間に主語を置かねばならないのである。その順序は大體次の如くである。(1)助動詞. (2)主語. (3)本動

詞。而るに此の外の場合には．(1)主語．(2)助動詞．(3)本動詞となる。この規則は能動詞，受動詞，何れの場合に於ても當てはまるのである。

例．"Would(詞) you(主) like(動) to see the engine room?"（貴君は機關室が見度いのですか。）

"Is(助) smokeless powder(主) used(動) altogether in this gun?"（無煙火藥も此の鐵砲には使ひますか。）

"How can(助) you(主) find(助) the range?"（どうして着彈距離が分かりますか。）

"On how many subjects will(助) you(主) be (動) examined(動)?"（何科目位に就いて試驗をされるのですか。）

"How many days had(助) it(主) been(助) raining(動) before the river flowed?"（河が氾濫する迄何日位雨が降り續けてゐましたか。）

"May(助) the bridge(主) not have been(助) damaged(動) by preceeding floods?"（この間の氾濫で橋は壞れなかつたでせうね。）

43. 助動詞の，主語動詞に關する排列順序の此の法則は．本動詞が形容詞に依つて置き變へられ．助動詞が to be である場合にも其の儘適用する事が出來る。

例．"Is(助) smokeless powder(主) more expensive (形) than ordinary powder?"（無煙火藥は普通の火藥より値段が高いですか。）

"Was(助) he(主) a great statesman(名) as well as a general?"（彼は陸軍大將であると同樣，大政治家ですか。）

Do you think (……と思ふか) の形を用ひる場合に，これを．who, which, where, then, why, how の如き疑問詞の前に用ひるのは誤りである。されば "Do you think which is the higher of those mountains?"（これ等の二つの山の中，どちらが高いですか）と云ふのは誤りである。宜しく "which do you think……" と改めねばならぬ。"Can you tell me." 及び "Do you think." の如き形が文の最初に用ひられた時には．それ以下の文の語の排列は肯定文の時と變りはない。例．"Can you tell me why the sky is blue?"（何故空は青いか分りますか。）"Do you think it will rain this afternoon?"（今日の午後雨が降ると思ひますか。）我々は決して．"Do you think will it rain this afternoon?" 或は．Can you tell me why is the sky blue?" などと云つてはならない。

44. 感嘆文に於ては排列順序は異つてゐる．この文は．大抵 how 或は what に始まつてゐる。此の順序を決定する最も容易なる方法は．how, what の次には本動詞又は形容詞，名詞或は動詞の目的が來ると云ふ事を記憶する事である。その余の順序は肯定文に於けると同じである。

例．"How terribly damaged(本動) the ship was!"

（何とまあ，この船はひどい損害を受けたことでせう。）

"How happy(形) I was to see my parents again!"（二度，兩親に會へるとは，何と幸福な事だつたらう。）

"What a scene of desolation(目的) I saw!"（何と云ふ荒れすさんだ景色を私は見た事だらう。）

"What a strong man(名) he is!"（何とまあ，強い人なんだらう。）

例外．文の主語が how 又は what に依つて限定された時には，文の順序は其の儘である。

例．"What a scene of desolation met my eyes!"（何とまあ，荒れすさんだ景色を見た事だらう。）

"How little good resulted from his labour!"（彼が働いたつて，まあほんの僅かしか利益にはならない。）

45. Indefinite present（不定現在）と Imperfect progressive present（過去不完了時體．一現在進行法）。

進行法の代りに不定現在法を用ひてはならぬ。進行法は．動作及び事實を總ての時に擴張する事無く，單にこれを現在のみに制限し，動作者は現に，或る行爲をなしつゝあり．他の動作から排除されてゐる事をあらはすものである。よしんば present tense が現在のみに限られてゐる場合があつても．それは決して進行法と同じではない。"He writes."（彼は書く）と云へば．それ

は單に彼がたづさはりつゝある動作を述べるのみにて．彼は讀まない．散歩しない．喋舌らない，怠けないと云ふ事を意味するものである。"He is writing."（彼は今書いてゐる）と云へば．彼は今或る仕事を爲しつゝあり．他の仕事をする事は出來ないと云ふ事を意味するのである。されば現在の動作を云ひあらはす時には此の形を用ひるのである。例．"He is balancing his books."（彼は本を思ひ比べてゐる。）"He is revising his mathematics."（彼は數學を再審してゐる。）"He is pursuing his investigation."（彼は．その調査を進めてゐる。）"The boys are playing."（子供は遊んでゐる。）

"Where are you going?"（どちらへお出でですか）と云ふべき所に"Where do you go?"と云つてはならぬ。

單に動作を明記するのみにて．動作の繼續を指定せざる場合には不定現在を用ひる。

例．"The Sumida River flows into Tokyo Bay."（隅田川は東京灣に注ぐ。）

不定現在の形は．永久に眞なるもの．或は習慣的なものを云ひ表はす時に用ひることに注意せよ。

例．"The tide rises and ebbs twice a day."（潮は日に二度宛滿干する。）

"Conscience makes cowards of us all."（良心は我々を總て臆病にする。）

"He works hard."（彼はいつも熱心に勉强す

る。)

46. 現在完了(present perfect tense)は次の事柄を云ひ表はすに用ひる。

(1) たつた今完了せる動作。

例. "I have sent the letter." (今其の手紙を出しました。)

"The messenger has come." (たつた今使ひが來ました。)

(2) 未だ過ぎ去らない期間に起つた動作。

例. "It has rained all the week." (up to this time.) (今週中雨が降りました。)

"We have seen great events this year." (今年は大きな出來事がありました。)

"Have you ever had typhoid fever?" (貴君は.いつかチブスに罹つた事がありますか。)

(3) 結果が今も尙ほ.殘つてゐるもの。

例. "I have been in the college two years. (and am still there.)" (私はこれで二年大學に居る事になります——今も居ます。)

"I have been a great sinner." (私は大きな罪人(宗教上)です。)

47. Ever と once.

Ever は at all times(始終); through all time(いつでも)と云ふ意味である。この廣い意味から來る強い力のある爲に.我々は此の語を强勢の目的に使用する。

學生は.この語の用法に氣を付けねばならぬ。

(a) 肯定文に於ける ever.

(1) 强勢の爲に副詞 hardly (殆んど……でない。)と共に用ゆ。

例. "This agreeable seat is surrounded with so many pleasing walks which are struck out of a wood, in the midst of which the house stands, that one can hardly ever be weary of rambling from one labyrinth of delight to another." —Steele. (この氣持ちの良い場所は.眞中に一軒家のある森から出てゐる樂しい壁にかこまれてゐるので.我々は一つの喜びの迷路から他の喜びの迷路に行く事に一寸も倦怠を感じない。—スチール)

"All the rivers are ice rivers, with hardly ever a drop of water in them." (河は悉く氷結してゐて.一滴の水もない。)

(2) 最上級形容詞の後の clause 中に使用せらる。

例. "This was the finest scene that I ever saw." (これは私が見た中で一番美しい景色です。)

"The iceberg would sink the biggest ship that was ever built." (氷山は一番大きな船でも沈める)

(3) Ever は always(常に); continually(絶えず)の代りに使用せらるる。

例. "I was ever of opinion, that ……" (私は何時も……と云ふ意見です。)

"The Clives had settled ever since the twelfth century ....." (クライブ黨は十二世紀以來落着いてゐる。)

(b) 條件文に於て. ever は屢々 "If it ever be true ....." (それが本當なら。)の如くに使用せらる。この場合の ever は "always" の意味である。

(c) Ever は又疑問文に屢々使用せらる。この場合. ever の意味は. "at any time during one's life." (一生の中何時か) と云ふ意味である。

例. "Have you ever been in Kyoto?"。(貴君は京都に行つた事がありますか。)

"Ever の代りに "once" を用ひてはならぬ。Once は formerly(以前に) と云ふ意味であつて, 主に肯定文に用ひる。例へば. "My soul had once some foolish fondness for thee." (我が靈魂は嘗て汝を愛すること甚しかりき。) の如し。

48. 過去完了時 (Past perfect tense) の用法。

この tense は過去の一定の時までに已に完了せる動作を云ひ表はす時に用ひる。

例. "I had written three letters before breakfast yesterday." (私は昨日朝食までに手紙を三本書きました。)

"It had begun to rain when we reached the river." (あの河に着いた時には已に雨が降り出してゐました。)

注意. 動作の時刻が指定せる場合にはこの tense を作つてはならない。されば "I had gone there in the summer vacation." (私はこの夏休みに彼處へ行きました。) と云ふことは出來ない。此の時は "I went there in the summer vacation." と云はなければならぬ。

49. 俗語に於て to go と云ふ動詞の現在完了形 have gone 及び過去完了形の had gone は屢々 have been 又は had been を以つて代用せらる。

例. "Have you ever been to Tokyo?" (君は東京へ行つた事があるか。)

"Had you ever been to the top of Mt. Fuji before last summer?" (君は昨年の夏以前に富士山に登つた事があるか。)

"Have you ever been abroad?" (君は洋行した事があるか。)

同じ樣に to be は to come に依つて代用される。例へば "He is from Satsuma." (彼は薩摩から來た。) と云へば. それは. "He comes from Satsuma." 或は "He is a native of Satsuma." (彼は薩摩の人です) と云ふ意味である。)

50. 受動態(Passive voice) の用法。

(1) 動作者が分からない時. 又は動作者の名前を擧げる必要の無い時この形を用ひる。例. "The glass is broken." (ガラスが壞れた。) "That book was stolen."

（あの本は盗まれた。）

（2） 動作の目的を強める時。例. "Philadelphia is situated on the Delaware."（フイラデルフイヤはデラウエール河に跨る。）

練習問題 V.

A.

次の文中の誤を正せ。

1. The speed of a bicycle is very faster than a jinrikisha.（自轉車は人力車より速い。）
2. Why Li Hung chang went to Russia?（何故李鴻章はロシアへ行きましたか。）
3. Who does call you 'slow Tom'?（誰がお前を「のろ間のトム」と云ふの？）
4. These boys are very muck glad to walhk on the seashore.（是等の少年は海岸を歩く事が大層好きです。）
5. Do you think when will he come here again?（貴君は何時頃あの人がまた來ると思ひますか。）
6. Last night I dreamed what a terrible dream.（昨夜はまあ何と云ふ恐ろしい夢を見た事でせう。）
7. Japanese copper is superior than any other country in the world.（日本の銅は世界のどの國の銅よりも良い。）
8. The tall three soldiers on white young horses are riding to and fro in the green open field.（背の高

い兵士が三人若い白馬に乘つて廣い綠の野をあちこちと歩いてゐる。）

9. I have met my friend yesterday, and I said to him that: "Where do you go?"（私は昨日友人に合つて,「何處へ行くか」とたづねました。）
10. In the engagement of Yellow Sea, Commander H. Sakamoto had gallantly fallen, as became the Japanese.（黃海の海軍戰に於て，坂本海軍少佐は日本人らしく勇敢に戰死を遂げました。）

B.

以下の邦文を英譯せよ。

1. 雷が微かに聞へます。
2. 誰が左樣に申しましたか。
3. 何とまあ良い景色ですこと。
4. 何時御歸國なさるお積りですか。
5. 臺灣の大きさはまづ九州と同じ位です。
6. あなたの伯父さんは御怒りになりました。
7. 御閑暇ならば夜分御遊びに御出で下さい。
8. 私は嘗て父と一緒に京都へ參りました。
9. 私共が停車場に着きましたトタンに，汽車は出てしまひました。
10. あなたが是迄御讀みになつた書物の內で何が一番面白う御座いましたか。

51. Shall と Will

Shall と Will の一般用法は以下の表に依つて說明す

ることが出來る。

Shall と Will の表

意味	第一人稱	第二人稱 第三人稱	例
A Simple Futurity (單純未來)	Shall	Will	I shall go to the garden, and so will you and James. (私は庭園に行きますが貴君とヂェイムスは如何ですか。)
Determination (決意)	Will	Shall	I will go there. (私は其處へ行く。) You shall go there. (貴君を其處へ行かせる。) He shall go there.
Command, (命令) Threat (恐喝) Prophecy (豫言)		Shall	Thou shalt not kill. (御前は殺してはならぬ) You shall never enter this room again. (二度とこの部屋に入つてはならぬ。) Rome shall perish. (ローマを亡ぼすべし。)
A Courtesy form of command (命令の丁寧なる形)		Will	You will see that due precautions are taken. (相當に御用心なさい)

意味	第一人稱	第二人稱 第三人稱	例
Promiss. (約束) active (能動的)	Will	Shall	I will do it for you. (あなたのためにそれを致しませう。) You shall be promoted at the end of the year. (君は今年の終りにはきつと昇級させてやる。)
Promiss. (約束) passive (受動的)	Shall	Shall	He shall go with me when I go. (僕が行く時は彼を屹度行連れてく。)
Habit (習慣)	Will	Will	I will read two pages of the Bible every morning. (僕は毎朝聖書を二頁宛讀む事にしてゐる。)
Certainty (確實なる事)	Shall	Shall	He shall not die alone. (あの男は屹度獨りでは死ぬまい。) Thou shall flourish in immortal youth. (汝は不滅の青春に燃ゆべし。) I shall not be able to make anything like it. (私は何物をもそれに似させることは出來ないであらう。)

意味	第一人稱	第二人稱 第三人稱	例
Futurity in indirect speech (間接話法中の未來)	Shall	Shall	He says I shall go there. (彼は私がそこへ行くだらうと云つてゐます。) You says you shall go there. (貴君は其處へ行くと仰言います。) He says he shall go there. (彼はそこへ行くだらうと云つてゐます。)
Determination in Indirect speech (間接話法中の決心)	Will	Will	He says I will write it. (彼は私がそれを書くと云つてゐる。) You say you will write it. He says he will write it.
A question. (疑問) futurity (未來)		Shall Will	Shall you go? (いらつしやいますか。) Will he go? (彼は行くだらうか。) Will it appear soon? (間もなく現はれるでせうか。)
A question. (疑問) Determination (決意)	Shall	Will Shall	Shall I go? (行かうかしら。) Will you go? (行きますか) Shall he go? (あの男は行くかしら。)

52. Should と Would.

Should と Would の表

意味	第一人稱	第二人稱 第三人稱	例
(1) Ccontingent or doubtful futurity (偶發的或は疑はしき未來)	should	would	"I should write." (私は書くであらう) "you would write." (御前は書くであらう) "He would write." (彼は書くであらう)
(2) The past determination on the part of the subject. (主語の過去の決心)	would	would	"I would go there." (私は行く積りであつた) "You would go there." (君は行く積りであつた) "He would go there." (彼は行く積りであつた)
(3) Past determination from a power external to the subject. (主語以外のものの過去の意志)	should	should	"He said I should go" (彼は私は行くと云つた) "I said you should go." (君は行くだらうと云つた) "I said he should go.—It was my will that he was to go." (私はきつと行かせると私は云つた)

意味	第一人稱	第二人稱 第三人稱	例
(4) Past customary action. (過去の習慣的動作)	would	would	"I would stroll down the sloping field." (私はよく坂になつた野原を下りたものでした) "He would sometimes called upon me." (彼は時々私を訪問したものです)
(5) Present option, wish, (現在の選擇・希望)	would	would	"I would fain go, but I can not." (私は喜んで行きたかつたのですが行く事が出來ませんでした) "He could go if he would." (彼は行かうと思へば行けたのだが)
(6) Fit or propriety in the present time. (現在に於ける恰當或は適正)	should	should	"We should obey our parents" (我々は親の云ひ付に從ふべきである) "You should not make a 't' in that way." (御前は 't' をそんな風に書くべきではない)
			"If I should go there, he should be very glad." (私

意味	第一人稱	第二人稱 第三人稱	例
(7) A pure supposition in the future time. (未來に於ける純粹の假定)	should	should	が若し彼處へ行けば・あの人は大變喜んだでせうに) "If it should rain, he would not go there." (若し雨が降るならば,彼は彼處へ行かないでせう) "If you should go there, you should be very happy." (若し君があそこく行くなら・君は大變幸福だらう。
(8) Present determination in the consequents of conditional sentences (expressing a pure supposition) (純假定を表はす條件文の後項に於ける現在の意志)	would	would	"I would do it if I were you." (若しも私が貴君ならば・私はそれをするでせう) "He would go now if he were ready.— He determines to go now, but he is not ready in fact, on which he does not go there." (彼は用意が出來てゐれば・今行く積りなのに,而し,實際用意が出來てゐないので,行く決心はしてゐるが・行かない)

意味	第一人稱	第二人稱 第三人稱	例
(9) A presett duty in the consequents of conditional sentences (expressing a pure supposition)(純粹假定をあらはす條件の後項に於ける現在の義務)	should	should	"I should do it if I were you." (若し私が貴君なら私はそれを爲なければならぬ) "You should do it if he were dead." (若し彼が死んだなら. 貴君はそれをしなければならぬ) "He should do it if he were you." (若し彼が貴君ならば彼はそれをしなければならぬ)
(10) Softened forms of shall and will expressing modesty or hesitation. (恭謙或は躊躇をあらはす shall 及び will の丁寧な形)	should	would should would	"I should be very much surprised." (私は大變驚きました) "I should like to hear such a story." (私はそんな話が聞き度う御座います) "Would you be so kind as to explain the meaning of this sentence?" (すみませんが, この文の意味を説明して下さいませんか。) "It should seem so or it would seem so." (そう思はれます)

53. May, can, might, could, must 及び Ought の用法。

May は次の如き意味がある。

(a) Permission(許可) "I may go."(私は行つても宜しい)—"I am permitted to go." (私は行く事を許可された。)

"You may go with me if you wish."(御希望なら私と一緒にゐらつしやつてもよう御座います)

"May we use our dictionaries in the examination?"(試驗に字書を用ひても宜しう御座いますか。)

May の此の意味に於ける用法は否定文中には極めて稀れである。何となれば. 否定されたる許可は絕對禁止に等しく總ての疑問或は偶然性を除去するからである。否定文に於ては may の代りに can を用ひる。

(b) Possibility or concession (可能或は讓步)。例.

"He may come yet." (彼は未だ來るかも知れぬ。)—"That may be so, but I doubt it."(そうらしいが. 私はそれを疑つてゐる。)

"You may recover your loss."(君は損失を取りかへす事が出來る。)

(c) A wish(希望). 但し主語の前に置かれたる時。例. "May you live happily and long for the service of your country." —Dryden. (御身は御身の國に盡さんがため. 幸福に. 永へなる命を有し給

はんことを。）—ドライデン

(d) Opportunity(機會); moral power(道德力); absolute power residing in another agent.（他の動作者の中に存する絕對力。）

例. "If you do not go now when you may you shall not go at any other time."（今行ける時に行かないのならば. もう外の時には行かさないから。）

(e) A wish(希望); for end or purpose(目的の爲に)—"that" の後に使はれる場合。例. "Men must work hard that they may be successful."（人は成功する爲に熱心に働かねばならぬ。）

Can は power(力)を表はす。"I can walk."（私は歩ける。）—"I am physically able to walk."（私は肉體的に歩く事が出來る。）又 "I can solve that question."（私は其の問題を解く事が出來る。）と云ふ事は. "I have the ability or skill requisite to solve that question."（私はその問題を解くに必要なる能力. 或は技倆を持つてゐる）と云ふ意味である。

"May I ask you a question?"（質問しても宜しう御座いますか。）と云ふべき場合に. "Can I ask you a question?" と云つてはならぬ。

Could 及び might は can 及び may の過去の形であつて. それ等の用法は上述の用法と同じである。"I might go there."（私は多分行つたでせう）は "Perhaps I went there."（多分私は行つた）と云ふ事であり "You

might go there."（君は行つても宜しかつた）は "You were permitted to go there."（君は行く事を許されてゐた。）と云ふ意味である。又 "He could solve that question."（彼は其の問題を解く事が出來た。）は "He was able to solve that question." と云ふ意味である。

註. (I): Could は條件文に於ては present power（現在の力）を云ひあらはす。"He could give it to you if he would."（彼がそうしやうと思へば. 其れを貴君に與へることが出來るのに。卽ち それを與へるのは 彼の權限內にある事を 意味するのである。）

註. (II): Might は條件文に於ては. 現在の自由又は意志 (present liberty or will) を云ひあらはす。例. "He might give it to you if he pleased."（彼が與へたいと思へば. それを貴君に與へたかも知れぬ。卽ち與へるか與へぬかは. たゞ彼の意向如何に依る。）

Must は次の如き意味を持つてゐる。

(a) Compulsion from without（外部よりの强制）"He must work."（彼は働かねばならぬ。）

(b) 殆んど肉體的必要に達せんとする程の. 抑へる事の出來ない慾望。例. "He must have society."（彼は是非共社會を持たねばならない。）

"We must have power on the sea as well as land."（我々は陸上に於ては勿論. 海上に於ても是

非共權力を持たねばならぬ。)

(c) Certainty (確實なること); 或は Necessary Inference or Codition (必然的なる推理或は條件)。

例. "In going there you must pass through the Suez Canal." (其處へ行くには是非共スエズ運河を通らねばならぬ。)

"You must be very tired after such a long walk." (そんな長い散歩をすれば屹度くたびれるに定つてゐる。)

"You must have passed by the place without seeing it." (あなたは屹度見ないで通りすぎたに相違ありません。)

"It must be so; Plate, thou reasonest well." —Addison. (然かあるべきなり。プレイトよ. 汝が理性は正しきなり。)

Ought の意味は次の如し。

(a) Moral obligation (道德上の義務)

例. "What I ought to do must be something that I can do." (私の爲す可き事は. 私の爲し得る事でなくてはならぬ。)

(b) 道德的見地から見て適當(fit)或は便利(expedient)なる事。

例. "Against a common enemy all parties ought to be united." (共通の敵に對して. 全黨派は結合すべきである。)

"After pressing the key, the explosion ought to take place immediately." (鍵を押せば立ち所に爆發は起るべきである。)

(c) To be necessary or advisable (必要なる事. 得策なる事。)

例. "One subject ought to be learned throughly before another is taken up." (次の問題を勉强する前に. 先づ充分一つの問題を勉强するのが大切だ。)

"You ought to wear a overcoat on such a cold day as this." (今日の様な冷い日にはオーバーコートを着た方が良いでせう。一着ないと危險です。)

Ought は conviction (確信) をあらはす場合に. 次の如く弱い用法がある。"You ought to know if any one does." (誰でも知つてゐるなら君も承知の筈た。) "The trumpet ought to have been blown, it is past nine." (喇叭は已に鳴つた筈だ。もう九時過ぎなんですから。)

54. 條件文の用法。

條件文に注意を拂ふことは最も大切な事である。何となれば. この題目は屢々難問を生ずることあるために. 英語を話す國民ですらも之に惱まされる事があるからである。

條件文は總て antecedent (前項) と consequent (後項) とより成る "Though he slay me, yet will I trust in him." (彼が私を殺すやうな事があつても私は彼を信ずる。) の文章に於て. "Though he slay me." を條件文

の前項と云ひ. その余の部分を後項と云ふ。

條件文の用法は以下の表に依つて説明する事が出來る。

條件文の表

意味	前項	後項	例
(1) 現在の事實。	不定現在直説法。	未來又は現在の直説法又は可能法	"If the book is in the library, I shall read it." (若しも其の本が圖書館にあるなら私はそれを讀みませう) "If he steals your shoe, he is dishonest." (若し彼が貴君の靴を盗めば彼は不正直な男である。 "If that is the case, I can understand you." (若しそう云ふ場合なら. 私は貴方を理解することが出來ます)
			"If the book was in the library, I should read it." (若しも其の本が圖書館にあつたら私はそれを讀んだでせう。)

意味	前項	後項	例
(2) 過去の事實。	不定過去直説法。	過去の可能法又は直説法。	"If he stole your shoes, he was dishonest." (若し彼が貴方の靴を盗んだのなら. 彼は不正直な男であつた) "If that was the case, I could understand you." (若しそう云ふ場合であつたら. 私は貴方を理解することが出來る)
(3) 疑ひ。	現在の假定法	未來の直説法	"If that book be in the library, I shall read it." (若しその本が圖書館にあるなら. 私はそれを讀みませう) "Though he slay me, yet will I trust in him." (彼が私を殺す樣なことがあつても. 私は彼を信じます) "If it rain, we should not be able to go." (若し雨が降れば行く事は出來ないでせう)

意味	前項	後項	例
(4) 未來の結果，或は結果。	未來或は現在の直說法。	未來又は現在の直說法。	"I will wait till he return." (彼が歸る迄待ちませう) "No bear lest dinner cool." (食事が冷めるといけませんから御遠慮なく) "Take heed lest at any time your hearts be over-charged surfeiting." (いつでも余り心に飽滿を感じない樣に注意なさい)
(5) 過去の出來事に關する不安	未來の直說法	未來の直說法	"If any of my readers have looked with so little attention upon the world around him; he will be mistaken." (私の讀者が自分等の周圍の世界を注意を以て見ることなければ彼は屹度誤るだらう)
(6) 未だ實現されざる意志。	現在の假定法	現在又は未來の直說法。	"The sentence is that you be imprisoned." (君を監禁せよと云ふ命令だ) "His intention will be that he go into the country." (彼は田舍へ行かうと考へてゐる)

意味	前項	後項	例
(7) 現在の事實に反する又は不可能なる事柄の假定	過去の假定法	過去の可能法	"If the book were in the library, I would read it." (若し其の本が圖書館にあるなら．私はそれを讀みますのに) "If he were here now, he would fain hear about it." (若し彼が其處に居れば．喜んでその事について聞くであらうに) "If I had the wings of a dove, I could go there." (若し私に鳩の羽があるなら私はそこへ行くであらうに)
(8) 現在の事實に反對の希望。	過去の假定法	現在の直說法	"I wish he were here." (彼が此處に居れば良いに) "O! had I the wings of a dove," (おお，私に鳩の羽があれば良いに)

意味	前項	後項	例
(9) 過去の事實に反對の假定。	直說法の過去完了。	可能法の過去完了。	"If I had been there I could have helped you." (若し私が其處に居たら貴方を助けることが出來たらうに) "If he had not been sick he should have passed the examination." (若し彼が病氣でなかつたら試驗に及第したらうに)
(10) 過去の事實に反對の希望。	直說法の過去完了。	直接法の過去	"He wished he had been there." (彼は其處に居たら良かつたと思つた) "I wished I had been there." (私は其處に居たら良かつたと思つた)
			"If I should come there, I should meet him." (若し私が其處へ行けば彼に會ふでせうに)

意味	前項	後項	例
(11) 未來の事實に反對の假定。	助動詞 "shall" の過去形。	可能法の過去	"If you should come there you would meet him." (若し君が其處へ行けば彼に會ひませうに) "If he should come there, he would meet me." (若し彼が其處へ行けば私に會ひまうに)

55. The Infinitive(不定法) (1) 動詞の infinitive は mood では無いが. agent 或は時を云はずして動作を云ひ表はす時に用ひる。それはたゞ動作の外には何物も確言することは出來ぬ。さればこの infinitive と云ふ名稱が出て來たのである。その記號は. 現代英語に於ては接頭の "to" であるが. これは以前に於ては前置詞として使用されたものである。然し乍ら. 此の "to" は一般の助動詞 shall, will, do, can, must, have の後. 及び make let, see, hear, need, feel(他動), dare(自動) bid の後には省略される。

例. "He bids us come." (彼は私等に來いと命令した。)

"He was bidden to prepare." (彼は準備せよと命せられた。)

"I dare not speak." (敢て喋れません。)

"They will not dare to draw back." (彼等は思ひ切つて退却出來ないでせう。)

"Do you feel the ball enter?" (貴方はその球の入るのが分りますが。)

"Just hear it thunder." (まああの雷を御聞きなさい。)

"I need not start now." (今出發する必要は無い。)

"He bade them leave the room." (彼は彼等を部屋から追ひ出した。)

"See it rain." (雨の降るのを御覽なせい。)

"Let them go." (彼等を行かせなさい。)

"They were let go." (彼等は行かせられた。)

"I had him clean the room thoroughly before my arrival." (私が着く前に. 彼はスツカリ部屋を掃除して貰つた。)

注意. (1) have 及び had が其の後に to のない infinitive を取る時には. それは cause, allow, wish の意味である。

(2) To のある infinitive の外に ing の付いた infinitive の形がある。infinitive が動詞の主語又は目的に使用される時には. どちらの形を使つても良い。

例. "To cross (or crossing) the rail road in front of a train is dangerous." (汽車の前で, 線路を横切るのは危險だ。)

"I intended to come and see (or coming to see) you yesterday." (私は昨日貴方に會ひに來る積りでした。)

(3) To の有る形. 及び ing の付いた形は共に Purpose(目的) 或は Fitness(適合) を表はす場合に使用せらる。それは in order to (……の爲に) 或は for the purpose of (……の目的の爲に) と云ふ意味である。

例. "May I go to get my note book?" (ノートブックを取りに行つても宜しう御座いますか。)

"The furniture of the house was burnt to cook the food." (食物を料理する爲に家具は燒かれた。)

"He spent the summer in preparing for the final examination." (彼は最後の試驗準備の爲に此の夏を過しました。)

(4) Infinitive は又, supposition(假定) の爲に使用せらる。

例. "To do her justice she was a noble woman." (本當の事を云へば彼の女は氣高い女だ。) 換言すれば. "If I should speak the truth about her, she was a noble women." である。

"Generally speaking, he was a wise man." (概して云へばあの男は賢い人である。) 換言すれば. "If I speak about him in a general way, he is a wise man." である。

56. Participle. (分詞)

(a) 文を便利と優雅の目的を以て簡約にする爲に. participle は compound sentence(複合文)の各部を結合するために使用せらる。例へば. "We started at four o'clock, reached Hiroshima at seven o'clock and caught the eight-forty train." (私共は四時に出發して七時に廣島に着き. 八時四十分發の列車に乘つた。) の如き長い複合に participle を應用すれば. "Starting at four o'clock and reaching Hiroshima at seven o'clock we caught the eight-forty train." となり. 頗る簡單となる。

(b) 分詞句(Participal phrase) は主要なる前提の原因を表はすに用ひられる。"Being very wise, he was respected by his friends." (彼は大層賢いので友人から尊敬された。) 卽ち "He was respected by his friends, becacse he was a very wise man." である。

57. Quatation(引用) は Direct(直接) と Indirect(間接)に分ける事が出來る。

Direct Quatation(直接引用) は話手又は作者の使用せる語を其の儘引用するものである。而して. これ等の語は Quatation mark(引用符號) の中に收められる。日本語で Quatation を誘出する時に用ふ『と』は英譯する時には譯さない。

間接引用は直接引用より難かしく. 直接引用よりも. 遙かに屢.用ひられる。直接引用は會話の場合には殆んど用ひられない。間接引用は一つ一つ exact な語を用

ひずに意味だけを傳へるものである。

(a) 間接引用に於ては引用符號は用ひられず. 引用句は. that, what, which, who, how, why, whether の如き接續詞に依つて誘出される。

(b) That は一般に引用を誘出する場合に用ひられるが. ask, inquire の如き語と共に用ひる時は that を使はないで他の語を使はねばならぬ。

例. "He asked me whether I would go with him, and I answered that I would." (彼は私に一緒に行くかと訊ねました。私は一緒に行かうと答へました。)

(c) 直接引用の tense は introductory verb(誘出動詞の tense に一致し. 名詞或は代名詞の人稱は一致せねばならぬ。

例. "He told me that I might (may に非ず) go with him." (彼は. 私に一緒に行つてもよいと云ひました。) これを直接引用に直せば "He said to me: 'you may go with me.'" である。

(d) Do 及び did を以て始まる疑問文を間接引用に直す時には. do 及び did を間接引用中に使つてはならぬ。"He asked me whether I went there every day." (彼は. 私に毎日其處へ行くかと訊ねました。) これを直接引用に改たむれば "He asked me: 'Do you go there every day.'" である。

上述の諸例. 特に第一例の如きを直接引用で表はせ

ば. 非常に無恰好となる。されば眞の英國人の如き會話をしやうと思へば. 是非共間接引用に習熟せねばならぬ。

(e) 命令文を間接引用に改める場合は. その introductory verb として order, tell, command などを使はねばならぬ。引用の前には introductory vorb を使つてはならぬ。

例. "He commanded every one to go below."(彼は一同に下に行けと命令した。)

"He forbade any one to come on deck." (彼は何人も甲板に登るべからずと云つた。)

(f) 請願の場合もこれと同じやうである。

例. "He begged them to release him but they refused to do so." (彼は彼等に釋して下さいと賴んだが. 彼等はそれを聽かなかつた。)

(g) 次の諸語はその本義に於て使用された時は變化する。

直接引用	間接引用
now(今)	~~them~~ then(その時)
this(是れ)	that(それ)
here(此處)	there(其處)
last(この前の)	the previous(その前の)
to-morrow(明日)	the next day(翌日)

私. "I overheard him say, 'My father died last night.'"(私は彼が. お父さんが昨夜死にました. と

云ふのをかすかに聞きました。) この文章を間接引用を以て書き直せば. "I overheard him say that his father had died on the previous night." となる。

58. 疑問文に於ける not の位置。

Not は主語の前. 或は動詞の前に置かれる。例へば "Did not you go ashore?" (貴君は上陸しなかつたのですか), "Did you not go ashore?" (上陸しなかつたのですか) の如きである。此の例に於て. 前者は主語に emphasis があり. 後者は action に emphasis がある。前者の場合は. "Did not you (as well as others) ashore?" (他人は勿論. 貴君までも上陸しなかつたか) と云ふ意味で. 卽ち人は兎も角貴君だけは上陸した. と思ひます と云ふ意味を含んでゐる。第二の問ひは. 私は貴君は上陸なさつて. 船に居なかつたと思ひます. と云ふ意味である。

59. Much と very.

Much と very とは共に副詞であつて, 同じ意味を有つてゐるがその用法は異なつてゐる。(much は又形容詞であると同時に名詞である。)

Much は比較級の形容詞或は副詞を限定する。例. "This is much cheaper than that." (これはあれよりもズツト安い。) "German is much more easily learned than English." (獨逸語は英語よりも遙かに學習し易い。)

Much は又最上級の形容詞の前に使用される。例.

"This is much the best." (これは最も良い。)

Very は原級の形容詞又は副詞を限定する時に用ひられる。例. "It is very difficult for me to do that." (それは私には非常に爲にくい。) "He speaks French very well." (彼はフランス語を良く話す。)

Very を使ふべき所に much 或は very much を使ふのは誤りである。例へば. "I am much fond of it."(私は其れが大層好きです。) 或は "I felt very much pleasantly." (私は大變氣持ちが良い。) などと云ふのは誤りである。第二番目の文章にはもう一つの誤りがある。それは以前に述べた事があるが. 次の様に改めねばならぬ。"It was very pleasant for me." 又は "I thought it was very amusing." と云はねばならない。

Much は又動詞を限定する爲に使用せらるる事あるも. very は動詞を限定する事はない。例へば. "I was very much surprised to hear the news."(私はその報知を聞いて大層驚いた) の如し。"I am very like." (私は太層好きだ) と云ふ形は屢々使はれる誤りであるがこの場合 like は形容詞に誤用せられてゐる。この文章に於て very を生かして使はふとするならば "I am very fond of ....." と云はねばならぬ。

若し like と云ふ動詞を使はふとするならば very の代りに very much を使はねばならぬ。

規則。原級の形容詞. 副詞を限定する場合には very を使ひ. その他の場合には much を使ふ。

60. Such と so.

この二語の最も普通なる用法は以下に示すが如きである。

Such は形容詞. 又は代名詞であつて. that kind(その種類)又は similar(同様の)と云ふ意味である。

So は副詞であつて. in such manner(そう云ふ風に); to such degree(そんなに) と云ふ意味である。

是等の語の用法は as 又は that を有する句に依つて表はされ又は理解されてゐる比較をあらはすものである。Such は形容詞であり so は副詞であり. 兩者の表はす意味は殆んど同じである事に注意せよ。何となれば such は so から出た語であるから。

例. "Such a windy day(as that was) is not suitable for rifle practice." (こんなに風の吹く日は小銃演習には適しない。)

"So windy a day (as this is) is not a pleasant one for a voyage." (こんなに風の吹く日は. 航海には愉快な日では無い。)

"There was such a noise that I could not sleep and the next day I was so tired that I could do nothing." (そんなに大きな物音がしたので寢ることが出來なかつた. そして翌日は大層くたびれたので何もする事は出來なかつた。

"There was so much noise that I could not hear anything."(あんまり喧ましかつたので私は何も聞

くことが出來なかつた。)

"The trip was not such a pleasant one as we had expected."(あの旅行は我々が豫期した程愉快なものではなかつた。)

"The weather was not so pleasant as it had been the day before."(天氣は先日程愉快では無かつた)

Very を使ふべき所に so を使ふのは誤りである。例へば. "Was the trip a pleasant one."(あの旅行は愉快でしたか) と問はれて. "No, it was not so pleasant." (いいえ. そんなに愉快ではありませんでした。)と答へるのは誤りである。何となれば. この答へには as 又は that を有する句が理解されてゐないからである。されば so を使ふのは誤りである。

形容詞 such は後に必ず a を伴ひ, 單數名詞の前に使用せらるる事に注意せよ。決して普通の形容詞の如く冠詞の後に來ない。

61. Too と Very.

副詞 too 及び very は共に日本語に於て『餘り』と譯されてゐるが. その意味は異つてゐる。

Too は殆んど云ふ事の出來ない程の「過度」を云ひ表はす時に用ひられ. その聯關的の句は云ひ表はされる場合もあり云ひ表はされない場合もある。

例. "My mark was just too low for me to get a medal."(私の點は餘り低いので賞牌を貰ふ事は出來ませんでした。)

"It is too mudy to take walk in the fields."(道が惡いので野原は散歩することが出來ぬ。)

"These clothes are too thick (for this warm weather)."(こんな暖い日には. この着物は餘り厚過ぎます。)

"These clothes are very thick but they are comfortable."(この着物は大層厚いが氣持ちが良い。)

"It was very muddy but still we took a walk." (大變道が惡いが矢張り散歩した。)

"My mark was very low; nearly the lowest of all."(私の點は大層惡い. 殆んど一番惡いでせう。)

Very は exceeding(極めて) と云ふ意味であるが too とは異なつてゐる。Very の場合には. その過度は指示されず. 聯關句を必要としない。

62. as ..... as す so ..... as.

副詞又は接續詞としての as の用法は極めて多い爲. 此處では述べる事が出來ない。

As ..... as は. equality (平等) を表はし. so ..... as は inequality (不平等) を表はすに用ひられる。例. "The number of applicants for entrance is as great as it was last year but it is not so great as it was the year before last."(入學志願者の數は昨年と同じ位であつたが一昨年程多くはない。)

63. 過去の或る時から見れば未來であつて. 而かも. 今は未來でない時を云ひあらはすに. to-morrow, next

week(來週) などの語を用ひてはならぬ。此の時は the next day 又は the next week と云はねばならぬ。

"I reached home on July 25th, on the next day(tomorrow に非す) I went to see my relations and some of my friends." (私は七月二十五日に故郷に着いて，その翌日は親戚や友人を訪問しました。)

此れと同じ理由に依つて單に未來をあらはす時には the を用ひてはならぬ。

過去の或る時に於て已に過去となつてゐる時を云ひあらはす時には yesterday は the day before となり，last month は the month before と變らねばならぬ。

The last は the next の如くに使用されぬ。

例. "The enemy was utterly defeated on the 17th; on the day before (yesterday ではない) our army crossed the river in spite of many difficulties." (敵は十七日に全く敗北した。その前日我軍は幾多の困難を排して河を渡つたのであつた。)

"The first division won the champion flag two years ago but the year before (the last year に非ず) it was won by another division—which one I do not remember." (二年前は第一師團が優勝旗を取つたがその前年は何處か外の師團が取つた。私は今その名を記憶して居ない。)

練習問題 VI.

A.

次の文を訂正せよ。

1. Can I ~~drink~~ a cup of water? (水を一杯飲んでもよいですか。)
3. I think I will return home ~~the~~ next week. (來週歸らうと思ひます。)
3. You will succeed if you preserve in such a way. (そう云ふ風に保存すれば大丈夫でせう。)
4. We would always prefer our duty to our pleasure. (我々はいつも快樂より義務を先きに選ばねばならぬ。)
5. He was very surprised to hear ~~the~~ on unhappy news. (あの不幸な報知を聞いて彼は大變驚いた。)
6. John is not as old as Thomas, but the former ~~is~~ are so tall as the latter. (ジョンはトムス程年とつてゐないが，而し前者は後者程背が高い。)

B.

以下の諸文に於て，直接話法を間接話法に改めよ。

1. The teacher said to us; "You may use a dictionary in the examination." (貴方方は試驗に字引を使つてもよい。』と先生は私等に云ひました)
2. My mother asked me: "Which do you think is more terrible, a lion or an elephant?" (獅子と象とどちらが恐ろしいと思ふかと，私の母は私に訊ね

ました。)

3. "Follow your general." cried Napoleon to his men. (汝の將軍に從へよと. ナポレオンは兵卒に向つて叫びました。)

4. A telegram from Nagoya to the "Jijishimpo" states: "The measles have broken out here." (痲疹が發生したと. 名古屋から時事新報に電報が來ました。)

5. He said, "I wish for nothing but to breath, in this island, in common with my fellow subjects, the air of liberty." (彼は云つた。『我はこの島に在りて我が同胞と共に. 自由の空氣を呼吸するを望むのみなり。』)

6. Lord Chatham remarked: "I rejoice that the grave has not closed upon me: that I am still alive to lift up my voice against a great wrong." (チヤツサム卿は次の樣に云つた。『予は憤墓の未だ我が上に迫らず. 生きて. 大なる罪惡をせむるため我が聲を張り上げ得ることを喜びとするのである。』)

C.

以下の邦文を英譯せよ。

1. 紙を一枚借して下さいませんか。
2. 以來斯樣な事をしてはいけません。
3. そんなに勉强すれば屹度勉强が出來ませう。

4. 私共は明日雨が降らうが槍が降らうが出掛けませう。
5. 代數の問題は思つた程難しくなかつた。
6. 郵船會社の土佐丸が先月此の港へ立ち寄つた時には其翌朝長崎へ向け出帆しました。
7. 一昨年私は病氣でなかつたら. 今年は卒業が出來たのだ。
8. 今日學校からの歸り路にフトあなたの伯父さんに御目に掛りましたら. 金太に明後日私宅へ來るやうに. 傳言して呉れと伯父さんから頼まれました。

(4) 雨云云…… to rain cats and dogs.

(6) 立寄る…… to touch.

61. 前置詞の用法。

前置詞の用法は極めて難しい故此の種の誤りは非常に多い。その用法の規則は少く. 大部分は練習に依つて會得されるものである。然しながら最も普通な動詞. 形容詞をその適當なる前置詞と共に用ひたるものを表に作つて置くのは大いに有益だらうと思ふ。されば次下に示す表をよく注意して貰ひ度い。

前置詞と共に用ひたる動詞. 形容詞の一覽表

Abhorrent to (嫌ふ。)

to be absorbed in (夢中になる。)

To abstain from (控へる。)

To accommodate one thing to another (適應する。)
To accompany (to 又は with を用ひず) (伴ふ。)
To be accompanied by (a living object) (伴はれる。)
To be accompanied with (an inanimate object) (併發する。)
To be accustomed to (慣れる。)
To accustom one's self to (慣らす)
To accuse of (with に非ず) (責める。)
To be acquainted with (……と知己である。)
To acquit of (放免する。)
To be adopted to (採用する。)
To adress (云ひ掛ける。)
adequate to (用が足りる。)
To adhere to (執着する。)
To admire (to を用ひず) (賞讃する。)
To advise (to を用ひず) (忠告する。)
To advise with (to consult) (相談する。)
To be afraid of (恐れる。)
To agreed with (to に非ず) to a person (人に賛成する。)
To agree to a proposition (提議に賛成する。)
To aim …… at (狙ふ。目的とする。)
To anger (to make …… angry) (怒らす。)
To be angry with a person (人に怒る。)
To be angry at a thing (物に怒る。)

To answer (to を用ひず) (答へる。)
Anxious about a person (心配する。)
Anxious for (something to happen) (望む。)
Antipathy to (against) (大嫌ひ。)
To appology to (…… に詫びる。)
To appoint …… to a position (任命する。)
To approach (to を用ひず) (近付く。)
To argue with a person (人と議論する。)
To argue about a matter (……に關して議論する。)
To be armed with a weapon (武裝する。)
To arrive at place (到着する。)
To arrive in port (淀泊する。)
To ascend (to を用ひず) (登る。)
Ashore on a shoal (淺瀨に乘上げる。)
To ask (to を用ゐず) a person (人に賴む。)
To ask for a thing (物を乞ふ。)
To ask about or after something (物を慾しがる。)
To assent to a proposition (提案に賛成する。)
To assist (助ける。)
To associate with a person (人と交はる。)
To be astonished at (驚く。)
To attend a person (人に仕へる。)
To attend to business (仕事に從事する。)
To be attended by a living object (供をされる。)
To be attended with an inanimate object (伴はれる)

Averse to, from (嫌ひ。)
To avoid (from を用ひず) (さける。)
To bath in water (水を浴びる。)
To belong to (……に屬す。)
To bestow on, upon (與へる。)
To be bound for a place (何處何處行き。)
To call on a person (訪問する。)
To be celebrated for (by に非ず)(……で有名である)
To charge a thing on a person. To charge a person with a thing (負擔させる。)
To collide with (衝突する。)
To command (to を用ひず) (命令する。)
To compare with (比較する。)
To compare to (例へる。)
"I compare hope to an anchor." (希望を錨に例へる。)
To be composed of (by に非ず) (構成される。)
To condole with a person (慰める。)
To confide in (信用する。)
To conform with, to (一致する。)
To congratulated a person on an event (人を祝ふ。)
To consent to a proposition (提案に承諾する。)
To consist of (……より成る。)
Contended with (滿足する。)
To coppy after a person (人を寫す。)

To coppy from nature (自然を寫す。)
To correspond with a person (人と通信する。)
To correspond to a thing (相當する。)
To be cruel to (殘酷な。)
To be cured a disease (恢復する。)
To defend oneself against an enemy (自己を防禦する)
To delighted with (喜ぶ。)
To depend on a person (依賴する。)
To depend upon circumstances (境遇に依る。)
To deprive of (奪ふ。)
To desist from doing something (斷念する。)
To deviate from (外れる。迷ふ。)
To be devoted to a person, a pursuit (盡す。)
To die of a disease (病氣ー死ぬ。)
To die from an accident (災難で死ぬ。)
To die by an instrument (道具で死ぬ。)
To die by one's own hand (自殺する。)
To die by violence. (横死する。)
Different from (to に非ず) (異なる。)
To differ with a person in opinion (人と意見を異にする。)
To differ from a person in some quality (人と性質を異にする。)
To be disappointed of a thing not obtained (手に入らないで悲觀する。)

To be disappointed in a thing obtained（手に入つた物に悲觀する。がつかりする。）
To be discontended with（不滿である。）
To direct a person（差向ける。）
To direct a letter（宛名を書く。）
Dislikk to（嫌ひ。）
To disobey（to を用ひず）（背く。）
To be displeased with a person（嫌である。）
To embark on a vessel（乘る。）
Enamoured of（愛せらる。）
To enter, in, into, on, upon なとは夫々 enter と共に用ひられるが. 而し enter は多くの場合前置詞を用ひない。Entrance into（入ること。）
Equal to（等しい。）
To escape from（のがれる。）
To excel（to を用ひず）（優る。）
To expel from（追ひ出す。）
To fail in a duty（役目が立たぬ。）
Famous for（有名である。）
Familiar with（to に非ず）
To be filled with（by に非ず）（滿される。）
To be fit for a purpose（適合する。）
Fluent in speaking（流暢な。）
Fond of doing something（好き。）
Fond to do something は誤り。

Foreign to, from「關係なき。）
Founded on, upon a basis（建てらる。）
Founded in truth（眞理に基く。）
To be frightened at（驚く。）
To be full of（with に非ず）（滿ちてゐる。）
To be glad of an event（喜ぶ。）
To graduate from a school（卒業する。）
To be graduated from a school（卒業する。）
To be grateful to a person（感謝する。）
To be guilty of a crime（罪を犯す。）
To hit a mark（的にあたる。）
To imitate（to を用ひず）（模倣する。）
To be impatient at delay, conduct（歯がゆい。……遲刻，擧動など。）
Impolite to a person（失禮な。）
To be included in（含まる。）
Incorporate into, with（組合ふ。）
Independent of（獨立してゐる。）
Initiation into（入會。）
Inroad into（侵入。）
Insolent to a person（あつかましい。）
To interfere with（妨害する。）
To intrude on a person（邪魔する。）
Intrude into a place（押し寄せる。）
To be killed with a weapon（武器で死ぬ。）

To be killed by an accident (災難で死ぬ。)
To be kind to (for に非ず) (親切な。)
Liberal of what is given (物を惜しまぬ。)
To listen for something not heard (聞へぬ物を聞かうとして待つ。)
To listen to something heard (傾聽する。)
To look for something not seen (見えない物を搜す。)
To look at something seen (見る。)
To meet (to を用ひず) a person (會ふ。)
To meet with an accident (事件に遇ふ。)
To meddle with (たづさわる。)
To mount (to を用ひず) (跨がる。)
To mourn for (悲しむ。)
Need of (必要な。)
To be next to (of に非ず) (……の隣り。)
To be noted for (有名である。)
To obey (to を用ひず) (從ふ。)
To be offended with a person (立腹する。)
To be opposite, opposite to (反對の。)
To be overwhelmed with a feeling, with shame, by an agent, by the waves. (……の爲に挫ける。)
To partake of (時には in) (參加する。)
To participate with a person, in a thing (加はる。)
To play a game (遊戯をする。)
To play musical instrument (樂器を奏する。)

To play at being soldiers (兵隊ごつこをする。)
Polite to a person(禮儀正しい。)
To prefer, preferable to (選ぶ。)
To prevail on, upon (說服する。)
To prevail over against (勝つ。)
To prevent—from (妨ぐ。)
To protect—from (防禦する。)
To quarrel with (喧嘩する。)
To reconcile with a person (仲直をする。)
To reconcile against a thing (一致させる。)
To recover from (恢復する。)
To rejoice with a person (喜ぶ。)
To rejoice at an event (出來事を見て喜ぶ。)
To be redolent of (香に滿つ。偲ばれる。)
To remonstrate with a person (意見をする。)
To remonstrate against a thing (異存を申立てる。)
To resemble (to を用ひず) (似る。)
Responsible for (責任がある。)
To be rid of (除く。)
To be the same as (to に非ず) (同種の。)
To be satisfied with (滿足する。)
To search for a person, a thing (搜がす。)
To seek for a person (人を求める。)
To sell …… for a certain price (或る値段で賣る。)
To serve (to を用ひず) a person (仕へる。)

To shoot at (for は又 in ではない。)
To be sick of, or with (厭になる。)
To be similar to (……に同じ。)
To be skilful at doing something (……に巧みな。)
To smile at, on (笑顔を見せる。)
To be sorry for a person (氣の毒に思ふ。)
To be sorry about (of に非ず) some unfortunate occurrence (遺憾に思ふ。)
To be sorry that something unfortunate happened (不幸な事の起つたのを殘念がる。)
To start from a place (出發する。)
Suitable for a position, rank (地位に相應しい。)
Suitable for a purpose (目的にかなふ。)
To be superior to (than に非ず) (……より勝る。)
To pe surprised at a sight (光景を見て驚く。)
To be surprised by an event (出來事に依つて驚く)
To sympathize with (同情する。)
To tell (to を用ひず) (告げる。)
To thank to a person for something (…… に對して人に感謝るす。)
To think of a person (思ひ出す。)
To think about a matter (考へる。)
To be tired of doing something (飽きる。)
To touch (to を用ひず) (觸れる。)
To tread on, upon (踏む。)

To trust in a person (信用する。)
To be unaccustomed to do something (慣れぬ。)
To be unwilling to do something (……するのが厭。)
To be unused to do something (慣れて居ない。)
To be useful or useless to a person (有益な。無益な。)
To be useful or useless for a purpose (有益な，或は無益な。)
To vest a thing in a person, a person with a thing (與へる。)
To visit (to を用ひず) (訪問する。)
To wait for (待つ。)
To warn (to は不用) (注意する。)
Weary of (飽きてゐる。)
To be willing to do something (喜んで……する。)
To wish for (望む。)
To wonder at (驚く。怪しむ。)

65. 時を表はす前置詞 at, on, in の用法。

At は時間の一定の個所を表はす。例 "at four o'-clock"(四時に);"at noon"(正午に);"at midnight"(夜中の十二時に);"at sunrise"(日の出に);"at the same time"(同時に)。例外 "at night"(夜に)(in the day time の反對)。On は一般に週又は月の day を云ひ表はす時に用ゆ。例へば "On a hot morning in June." (六月の暑い朝) "On a bitterly cold night in the winter of 1890." (千

八百九十年の冬の或る大變寒い日に）などの如きである。

例. "We have a lesson in English on Tuesday and Friday." (火曜日と金曜日には英語の課業がある)

"He started at nine o'clock on the 10th of last month." (彼は先日の十日の九時に出發した。)

"I left home at five o'clock in the morning on the 19th of August." (私は八月九日午前五時に家を去りました。)

In はもつと長い時間を云ひ表はす時に用ゆ。

例外."In the morning"(午前);"in the afternoon"(午後); "in the evening"(夕方);"in the night"(夜—夜中の意味)

例. "In childfood"(子供の時代に); "in summer"(夏に); "in feudal times"(封建時代に);"in the 29th year of Meiji" (明治二十九年); "in 1897"(千八百九十七年);,,in July"(七月に)。

以下に示す語に於ては. on 又は in を用ひない。

Yesterday(昨日); yesterday morning(昨日の朝); last night(昨夜); to-day(今日); this morning(今朝); to night (今夜); tomorrow(明日); tomorrow afternoon(明日の午後); tomorrow night (明夜); next month (來月); next year (來年); last week (先週); every day (毎日); evey morning(毎朝) など。

67. 或る事件の初まつた時を云ひあらはす場合には at, on 又は in を用ひるのであつて from は誤りであ

 the 21th of July

る。以下に示す二例は誤りである。

例. "The vacation begins from July 21st." 「休暇は七月二十一日から初まります。」

"Lessons begin from eight o'clock in the morning." (課業は朝の八時から始まります。)

是等は共に誤りであつて on July 21st 及び at eight o'clock と改めねばならぬ。

時を云ひ表はす場合に. from は大抵 to 又は till と共に用ひられる。以下の例を見よ。

"The harbour is closed from November to March by ice." (その港は. 十一月から三月までは氷で閉鎖されます。)

From は殆んど begin と共に使用せらるる事はない。

68. 場所を示す前置詞 at 及び in の用法。

我々は "at the market cross."(市場の交叉點で) 或は "at the fountain," (泉水の所で) などと云ふ事は出來る。又 "in the town."(町で); "in France."(佛蘭西で); "in America"(亞米利加で) などと云ふ。前者は自分がその側らに立つ事の出來る程の狹い制限されたものを云ひ. 後者は前者より擴張されたもので. 我々が含包されてゐるものを云ふ。而し shool 又は church の如き語には, at, in どちらでも使へる。

69. By と with. from と of.

By は action (動作)の doer (行爲者) 或は cause(原因)を示し. with は action に使用されたる instrument

(道具) を示すに用ひられる。From と of は material (材料) を示すに用ひられてゐる。

例. "The house was built of wood by a carpenter with a saw and hammer." (その家は木を材料として. 大工に依つて鋸と鎚を以つて作られた。)

材料の本質の變化される時には from を用ひ. 變化せざる時には of を用ゆ。而しながらこの區別は屢々無視される事がある。

Of は from よりも屢々用ひられる。されど我國學生は. from の方を多く用ひる。

例. "Bricks are made from clay which is hardened by heat." (煉瓦は熱に依つて堅められた粘土から作る。)

70. Before , ago.

"It happened two years (a few minutes, a long time etc.) ago."(二ヶ年前(數分前. ずつと前)に起つた。) と云ふ事が出來る。この際 ago の代りに before を使つてはならぬ。)

Before は『前に』と云ふ意味の場合は前置詞であつて其の後には目的を必ず取る。

例 "The meeting began before I reached there."(私が其處へ到着しない中に會は始まつた。)

71. After と behind.

After は order(順序) に重きを置き. behind は position(位置) に重きを置く。我々は人を run after (追ひ

掛ける) し. 又は to stand behind one's chair. (椅子の後ろに立つ) する事が出來る。

After は比喩的に. 又は文字通りに使用され. behind は單に文字通りのみに使用さる。

例. "Men hunt after amusement." (人は快樂を頻りに求める。)

"Misfortunes come after one another." (不幸が次から次へと來る。)

"A garden lies behind a house."(家の背後に庭園がある。)

練習問題 VII.

A.

次の文章中の前置詞の誤用を訂正せよ。

1. Avoid from temptation. (誘惑をさけよ。)
2. The deck was protected by steel plates. (甲板は鋼鐵板で保護されてあつた。)
3. The old man is skilful to fencing. (あの老人は擊劍が上手だ。)
4. As to this matter I agree to him.(この事に就いては. 私は彼に同意致します。)
5. Air is composed by nitrogen or oxygen. (空氣は窒素と酸素とより成る。)
6. The Amur separates Manturia with Siberia. (アムール河は. 滿洲とシベリヤの境をしてゐる。)
7. There was a violent storm on last night. Light-

ning struck several places.（昨夜ひどい暴風雨があつた．稲光が方方に光りました。）

8. He graduated the 4th Higher School and entered into the College.（彼は第四高等學校を卒業して大學へ入つた。）

9. It was seldom that anger deprived him from power over himself.（彼は怒りの爲自制力を失ふやうな事は殆んどなかつた。）

10. A slight shock of earthquake was felt on half past nine at this morning.（今朝九時半に．微震がありました。）

11. The custom of Tokyo folks of to-day is very different with that of them in thirty years before.（今日の東京人の習慣は．三十年前の彼等の習慣とは大變違ひます。）

12. He started his native place Okayama, and after twenty-five days journey he arrived to Tokyo."（私は故郷の岡山を出發して．二十五日間の旅行後．東京へ着きました。）

13. Is that bottle filled by wine ?（その罎に葡萄酒か一杯入つてますか。）No, but it is full with beer. い（いえ．ビールが一杯入つてます。）

14. Your name was mentioned on next of his.（貴君の名前は．彼の名前の次に呼ばれました。）

15. The drunkard was so angry of a most trifle thing

that it was scarcely safe to approach to him.（あの酔輩は極めて小さな事に．あんなに腹を立ててゐたのですから．傍に近付くのは危ふございました。）

B.

以下の邦文を英譯せよ。

1. 今暫くあの人を待つて居りませう。
2. 歸り途で海軍士官にお會ひでしたか。
3. 向島は待乳山と相對して居ります。
4. 此事の成否はあなた次第です。
5. 其の有様*に皆喫驚しました。
6. 富士山に登るのは何月が一番宜しう御座いますか。
7. 高等學校の運動會は．來月十五日に擧行し當日は午前八時より開會する筈。
8. あの兵士は此の間の戰爭でうけた傷が原因で死んだのだそうです。
9. 孟買に居た私の友人はペストで死にましたが．伯父さんの方は治り*ました。
10. 支那の水雷艇*は威海衛より芝罘へ逃るる途中淺瀬*へ乘り上げました。

(5) 有様…… Sight,

(9) 治る…… to be cured.

(10) 水雷艇…… Torpedo boat. 淺瀬…… shoal.

第　四　篇

1. In ancient times(古代に於て)の代りに in ancient time と使つてはならぬ。例:—"Here also flourished in ancient times these bands of gallant outlaws, whose deeds have been rendered so popular in English song."—Walter Scott. (こゝにも亦昔榮えし幾組の流賊あり. 彼等が功績は英蘭の歌にかくも名高きものなり。)

2. My school(私の學校), my country(私の國)などと云つてはならぬ。かゝる場合は是非共 our school, 又は our country と云はねばならぬ。されど自分の故郷を my native place と呼び, 又外國にあつて自國を my country と云ふのは誤りではない。

3. 次に示すが如く try を使つてはならぬ。

"Expected to travel in the vacation." (私は此の休みに旅行をしやうと思つてゐます。)

"We tried fencing before His Majesty, the Emperor." (彼は天皇陛下の御前で擊劍をした。)

"I expected to travel" 又は "We fenced" と云ふのは正しい。而し上文に示すが如き形は誤りである。

2. To fall と to let fall 或は to drop.

或る理由の下に自動詞の fall は他動詞の如く使用されることがあるがこれは良くない。

"As I fell (i.v.) I dropped (fell に非ず) my purse." (私は落ちながら財布を落しました。)

5. 動詞 to lay を使ふべき所に to lie を使つてはならぬ。to lie は自動詞であり. その不完全分詞は lying であり, 完全分詞は lain である。過去は lay である。例. "Ships lay at anchor near by." (船が近くに投錨してゐる。)

To lay は他動詞であつて. 其の不完全分詞は laying であり. 其の完全分詞及び過去は laid である。例. "The keel was laid last year." (龍骨は去年置かれた)

To lie の過去形は lay であり. lay の過去形は laid である事を記憶しなければならぬ。

6. 最後に私は注意しなければならぬ幾多の誤りを擧げて本篇を終らうと思ふ。

(1) Other many, other four と云つてはならぬ。此の場合は是非共 many other, 又は four other と云はねばならぬ。

(2) "I feel incovinient to do a certain thing"(その事をするのは私には都合か悪い。) の如き形を用ひてはならぬ。この場合には是非共 "It is inconvinient for me ....." と云はねばならぬ。

(3) Very much pleasantly(大へん愉快に) と云つてはならぬ。この場合は單に very のみを使つて much を使つてはならない。何となれば much は原級の副詞を限定する事が出來ないからである。

(4) Ship の荷物を cargo と云ひ. 旅行者の携へる荷物を baggage 或は luggage と云ふ。baggage は亞米

利加によく用ひられ. luggage は英國に用ひられる。

(5) 若し諸君が特に理由を述べやうと欲しない時には. 決して by or under circumstances, 或は on some reason と云つてはならぬ。かゝる場合には次の例の如く云ふ。

例. "I had to go to another school for certain reasons." (私は或る理由の爲に轉校しなければなりませんでした。)

(6) "Preparations were done before we reached the shooting ground." (射的場へ着かない内にもう準備が出來てゐた。) の如き形を使ふのは良くない。Preparations は do されるのでなくて make されるのである。卽ち "Preparations were made ..... " に改めねばならぬ。

(7) At just ten o'clock(正十時に) と云つてはならぬ。此の場合には是非共 just at ten o'clock と云はねばならぬ。

About を用ひる時には at は省略される。例へば. "We started about sunrise." (日の出頃に出發した) の如きである。

(8) 『先々週の日曜日』と云ふ場合には the Sunday before last と云ふ。the before last Sunday は誤りである。『先週の日曜日』は last Sunday であつて. the last Sunday は誤りである。

(9) 主語が第三人稱無生物である疑問文には shall

を使つてはならぬ。この場合は will を用ひる。例へば "When shall the annual examination begin." (學年試驗は何時初まるのでせうか。) は誤りである。shall は will に改めねばならぬ。

(10) 疑問に答へる場合に Oh, yes. (はい. そうです。) を使はない樣に注意せよ。この形は時には用ひられる事があるが. 我々日本人は. 往々にして不適當な場所に不適當な方法で使用するため. 寧ろ使はない方が良い。

(11) Some other の代りに some another と云つてはならぬ。

(12) Clear one's face.(顏を洗ふ), clear a room.(部屋を掃除する) と云つてはならぬ。この場合は wash one's face. sweep a room, 或は clear up a room と云ふ。

(13) 『私は間違ひをした』と云ふ場合は. "I have made a mistake." と云ひ. 『私は間違つてゐます』と云ふ時は "I am mistaken." と云ふ。"I mistake." は誤りである。

(14) There の that place(其處) と云ふ意味に使はれる時には. 前置詞 in 又は to は使はれない。例. "I went there on arriving and stayed there one day." (私は到着すると すぐ其處へ行つて. 一日滯在してゐました。)

(15) Anxious は次の如くに使用される。"I was

anxious about my health, and was anxious lest I should be unable to pass the physical examination." (私は自分の健康を氣遣ひました。そして體格檢査に及第出來ないといけないかと心配しました。)

(16) Certainly (確かに) と exactly (確かに) とは用ひ方が違つてゐる。我々が fact (事實) を疑つてゐる場合には certainly を使ふ。例へば "I do not know, certainly whether we shall be allowed to return home this summer or not." (私は此の夏我々は家へ歸れるかどうか確かに分りません。) の如く用ふ。又 details (詳しい事) に對して疑問を抱いてゐる場合は exactly を使ふ。例. "I do not know exactly how many be allowed to enter the college this year." (今年は何人位大學へ入れるか確かには分りません。)

(17) "I am afraid." (恐ろしい) と云ふ代りに "I feel afraid." と云ふのは誤りである。

(18) "I smell a sweet smell." (良ひ匂がする) と云ふ場合に. "I feel a sweet smell." と云ふのは誤りである。

(19) "He fevered." と云つてはならない。この場合には. "He took a fever." "he had fever." "He was taken, or seized with fever." と云はねばならぬ。

(20) Bread and butter (バタ付きのパン) と云ふ時に. butter and bread と云ふのは誤りである。

(21) 『彼は未だ生きてゐる』と云ふ場合には "He

is still alive." と云つて. "He is still in life." と云つてはならぬ。

(22) 『骨牌をする』は "to play at cards." であつて "to play at cards." ではない。

(23) 『小兒が天然痘に罹つた』と云ふ事を表はす場合には. "The child was seized with small pox." 或は "The child was taken ill of small pox." と云ふ。"The child took the pox." は誤りである。

(24) 『それはどんなものですか』と云ふ場合に "Whate like is it?" と云つてはならぬ。必ず "What is it like?" と云はねばならぬ。

(25) "To be ashamed" (耻づる) と云ふ時に "To think shame と云ふのは誤りである。

(26) "I slipped a foot and fell down." (足を外して落ちました。) と云つてはならぬ。これは次の如くに改めねばならぬ。"My foot slipped and I fell."

(27) 『朝飯を食べる』は. "to take breakfast." であつて. "to get one's breakfast" ではない。『朝飯に卵を食べる』は "to take an egg to (for) breakfast." である。

練習問題 VIII.

A.

次の文章を訂正せよ。

1. Where is your country? (あなたの御國は何處ですか。)

2. By some reasons I must leave school. (私は或る理由で學校を止めねばなりません。)
3. The slain were laying in the field." (被殺戮者は野原に横たはつてゐた。)
4. The P and O steamer Ancona is taking in bugg-age. (半島東洋汽船航海會社の汽船アンコナ號は今積荷をしてゐる。)
5. Owing to his drinking bad water he become cholera. (彼は悪い水を飲んだ爲にコレラになつた。)
6. Count Itagaki tried a speech at the general meeting of Liberals. (板垣伯爵は自由黨の總會に於て一場の演説を試みた。)
7. Women and men too often play their part in life as if there were no hereafter. (男女は宛も將來のない如く・人生に於て振舞ふことが余りに屢ある)
8. They started from this place at about sunrise and reached Yokohama at just four o'clock p.m. (彼等は日の出頃に此の地を出發して・丁度・四時に横濱に着いた。)
9. There was held a public exhibiton in my school, at which a number of gentlemen and ladies from the city was present. (私の學校に公開展覽會が開催されました。市から來た多數の紳士淑女がそれに出席致しました。)

B.

以下の邦文を英譯せよ。

1. 私の學校では來月修學旅行*をするそうです。
2. 此處に橋が無いので私共は寔に不便に覺へます。
3. 貴方の荷物は重いですか。ハイ・五貫目程ありませう。
4. 午前十一時三十二分發の列車で行くと向ふへは・翌朝丁度五時には着きます。
5. 都合に依り・一昨日芝區東町九丁目三番地へ移轉*致しました。あの邊に御出でになつたら御立寄り下さい。
6. 毎朝顔を洗つてから・室を掃除致しますか。又は室を掃除してから顔を洗ひますか。

(1) 修學旅行…… Educational Excursion.
(5) 移轉する…… to remove.

雜種の誤文訂正問題

A.

1. I prefer tea than coffee. (私はコーヒーより茶が好きだ。)
2. Chikuma-kan is fastest ship among the cruisers class. (筑摩艦は巡洋艦の仲間の中一番速い。)
3. My school begins from eight hours on every morning. (私の學校は毎朝八時から初まります。)
4. I fell a glass on the floor and it broke to pieces.

（私はコップを床に落した。そしてそれは微塵に破れた。）

5. He was much happy when he did hear he succeeded entrance examination. （彼は試驗に及第した事を聞いた時には大層喜びました。）

6. I have first gone to a primary school when I was six years age. （私は六歳の時初めて小學に行きました。）

7. Your body is strong enough to pass the body-examination. （君の身體は丈夫だから充分身體檢査には通るよ。）

8. It will be easy for Japanese students to learn the French than the English. （日本の學生にとつては英語を習ふより佛蘭西語を習ふ方が容易でせう。）

9. When we reached to the place we found that they have been already gone. （私共が其處へ着いた時には．彼等は最早行つた後でした。）

10. A victories of the Japan's arms, both in land and sea, is result of much year's best discipline. （陸に海に．日本軍の戰勝は．これ多年の最善の訓練の結果なり。）

11. In the my way to Tokyo, I have been the pleasure of travel, either of steamer, and above the iron-road. （私は東京に行く道すがら汽船の旅の愉快さを味ひました。それは遙かに汽車旅行以上です。）

12. By some circumstances, my house removed Yamada, at Miye prefecture. （都合に依り三重縣の山田に轉宅致しました。）

13. I wish to try a travel at this summer vacation to many countries in Japan. （私はこの夏休みに日本の國々に旅行を試み度いと思ひます。）

14. I am very much fond to enter Imperial Naval College, I was very busy to do the preparations for entrance examination. （私は大變海軍大學に入り度いのです。私は今入學試驗準備に忙しう御座います。）

15. The combined fleets consisted with fourty-eight battle ships, and cruisers, destroyers and submarin boats without number. （聯合艦隊は四十八隻の戰艦．巡洋艦．驅逐艦と．多くの潛水艦から成つてゐた。）

B.

1. Don't touch to it. （それに觸れてはならぬ。）
2. Silver is white colour. （銀は白色である。）
3. Taro is very tall than me. （太郎は僕よりズツト高い。）
4. How did you thought of it? （どうして思ひ付きましたか。）
5. My sister is tame to tell with French. （私の姉さんは．佛人と話すことになれてゐる。）

6. What country have a storongest navies among world? (世界でどの國が一番强い海軍を持つてゐますか。)

7. Do you think shall it rain this afternoon. (今日の午後雨が降るでせうか。)

8. I returned with they my native place. (私は彼等と一緒に故郷に歸りました。)

9. The season being able for travel, the steam-boat is going at every day to Miyajima from Hiroshima. (旅行の出來る季節となつたので. 毎日廣島から宮島まで蒸汽船が通つてゐます。)

10. A fishing vessel with the crews of thirty men started Iwami, for Korean waters, in 10th inst. (乘組員三十人の漁船が本月十日に. 朝鮮海へ向け石見を出發した。)

11. Which are you like better to ride on boat or on horse? (貴方は端艇に乘るのと. 馬に乘るのと. どちらが好きですか。)

12. The school in which I spent my two last years have given me most good. (私が最後の二ヶ年を送つたこの學校が一番私の爲になりました。)

13. Owing to the rainfall from the Sunday the embankment of the Washizu-Futagawa section of the Tokaido Railway broke and then traffic was suspended. (この日曜の大雨の爲に北海道鐵道の鷲津

二川間の堤防が破れ. 交通は杜絶しました。)

14. The Indian village is protected by palisades to defend the sudden attack of a enemy. (その印度人の村は敵の襲擊を防ぐために柵に依つて守られてゐます。)

15. Shinano is in the western part of Kodzuke, and it is celebrated with buckwheat. (信濃は上野の西部にあつて蕎麥で有名です。)

C.

次の文中の誤りを訂正し. その理由を擧げよ。

A Regatta.

The rowing season have now set in, and for a few week Sumida River will be a scene of animation and excitement, with the regattas made by various schools at the Metropolis. First boat race of the season was hold at last Sunday, by students of the Higher Commercial school. It was very delightful weather a rather chiellyb reeze blowing from South—indeed most able one for a regatta. From morning there were many spectators in the University grand stand and soon after a o'clock p.m. the place was packed with visitors, among whom a large number of the leading gentlemen andl adies of the city were seen there. The programme was long one, consisting with eighteen races. Every races was agreeable performed in great interest and applause. But

it is hardly necessary to say that most exciting one of all races was the champion race. Great enthusiasm of the crews and their supporters, intense interest shown on the part of the spectators, I have no pen to write them. Whcn the conquering cried marched up to the platform to received the honored prizes, outburst of applause thal rose from every side was a tremendous and deafing. It was 5 hours on the evening when the programme was completed. (今やボートの季節となつた。數週間隅田川は．都下の諸學校のボートレースで活氣と興奮の有樣を呈するであらう。この時節に於ける．今年の最初の竣漕は．先週の日曜日に高等商業學校の學生に依つて行はれた。天氣清朗にして冷き南風吹き實に競漕に相應しきそよ風であつた。朝から幾多の觀客は帝大のスタンドにつめかけ午後一時過ぎには立錐の餘地なきに至つた。觀衆の中には．市内の上流の紳士淑女も幾多見へてゐた。プログラムは長く．十八回の競漕より成つてゐた。レースは總て．大なる興味と喝采の中に氣持ちよく進行した。されど最も緊張せる競漕勿論覇業レースである。選手及び應援者の熱狂．觀客の興味．これ等は到抵拙い筆には書きあらはす事が出來ない。勝ち誇つた選手が．名譽の賞品を受けにフラフトフォームに進んだ時．四面より起こつた歡呼の聲は百雷の轟くごとく．耳も聾せん許りであるつた。プログラムの全く終つたのは夕方の五時であつた。

以下の邦文を英譯せよ。

1. 大阪から横濱まで船で來て幾日かゝりますか。
2. 此の大風では伯父さんの出發も延びましたらう。
3. 午後は三回神戸行きの汽車が出るのは慥かに知つて居りますが．何時に出るか慥かに覺えて居りません。
4. 内地雜居となつたら．隣りには英人．向ふの家には獨逸人が住むと云ふやうな事になりますから．一つ外國語を習はうと思ひますが．何所の國語が一番都合が宜しいでせうか。
5. 昔しスパルタ國の一少年が其の劍の短きことを父に訴へたらば「進んで其の短を補へ」と父は答へたそうですが．此の返答はなかなか面白いではありませんか。
6. 今日の天氣豫報には何と書いてありますか。
   一區より四區までは「北の國．多少の雨．寒くなる」とあります。
7. あなたと寫眞を寫しに行たのは．丁度先週の今日で餘程快晴の日でしたが．今日とは大違ひでした。
8. 今年臺灣のペストは初發より今日まで百五十人もあつたが．兵士には一人も該病に罹つたものはないと云ふ事です。
9. 此れが活動寫眞ですか．話には度々聞いて居りましたが見たのは此がれ始めてです。

10. 本居宣長の「敷島の大和心を人問はば．朝日に匂ふ山櫻花」と云ふ歌と．程明道の「少年易老學難成一寸光陰不可輕」と云ふ詩を知らない書生は無いでせう。

—（終）—

定價金壹圓貳拾錢

大正十一年十二月 十 日印刷
大正十一年十二月十八日發行

複製 不許

編者 聚英閣編輯部
東京市牛込區横寺町四三

發行者 後藤誠雄
東京市牛込區横寺町四三

印刷者 長誠堂印刷所
茶畑菊太郎
東京市小石川區關口水道町四六

發行所 聚英閣
東京市牛込區横寺町四三
電話番町四六二
振替東京四七八六九

保ちに伺ひ
現今の中等教育の
時間の大部分を英語の
研究に費やしつつあるが
然りとせば英語が
実に望かはしき迫力
然り然り然り
である

実語を倒せ
言ふ所如き
問題を等閑に付しつつある
文
である

6. 4.14

323
459

終